新専門医制度内科領域

兵庫県立尼崎総合医療センター

(Hyogo AGMC)

Ⅰ　内科専門医研修プログラム

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳(疾患群項目表)』『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。



兵庫県立尼崎総合医療センター　http://agmc.hyogo.jp/

2027 年 4 月 1 日　改訂版

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム目次

１．理念・使命・特性【整備基準 1～3】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

２．募集専攻医数【整備基準 27】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

３．専門知識・専門技能とは【整備基準 4,5】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

４．専門知識・専門技能の習得計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
到達目標【整備基準 8～10】
臨床現場での学習【整備基準 13】
臨床現場を離れた学習【整備基準 14】
自己学習【整備基準 15】
研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

５．プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】・・・・・・・・ 8

６．リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

７．学術活動に関する研修計画【整備基準 12】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

８．コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】・・・・・・・・・・・・・・・・・9

９．地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】・・・・・・・・・・・・・・・・9

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22､53】・・・・・・・・・・・・・・・12

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】・・・・・・・・・・・・14

14. プログラムとしての指導者研修(FD)の計画【整備基準 18,43】・・・・・・・・・・15

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】・・・・・・・・・・・・15

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】　・・・・・・・・・・・16

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】
・・・・・・17

モデルプログラム及び研修施設群 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

専門研修施設（連携施設の）選択 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

専門基幹施設概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

専門研修連携施設概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

プログラム管理委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97

各年次到達目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99

新専門医制度　内科領域モデルプログラム
地方型一般病院

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1）本プログラムは，兵庫県阪神南医療圏の中心的な高度急性期病院である兵庫県立尼崎総合医療センターを基幹施設として，兵庫県阪神南医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て兵庫県の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され，基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として兵庫県全域を支える内科専門医の育成を行います.

2）初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 1

3）年以上＋連携施設 1 年以上）あるいは 4 年間（基幹施設 1 年以上＋連施施設 1 年以上）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.

内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です．また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です．内科の専門研修では，幅広い疾患群を順次，経験してゆくことによって，内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに，疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります．そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として，科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします.

使命【整備基準 2】

1）超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います.

2）本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います.

3）疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います.

4）将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います.

特性

1) 本プログラムは，兵庫県阪神南医療圏の中心的な高度急性期病院である兵庫県立尼崎総合医療センターを基幹施設として，兵庫県阪神南医療圏，近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．3 年型プログラム（以下「3 年型」と省略）と 4 年型プログラム（以下「4 年型」と省略）の期間の異なる 2 つのプログラムを用意しました．3 年型には、基幹施設で 2 年間研修する一般型と連携施設で 2 年間研修する地域優先型を用意しました．

2) 研修期間は，3 年型一般型が基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年，地域優先型が基幹施設 1 年＋連携施設 2 年の 3 年間，4 年型が基幹施設 1 年以上＋連携施設 1 年以上の 4 年間になります．兵庫県立尼崎総合医療センターは、平成 27 年 7 月に開院し、地域の内科救急医療の負託に応えるとともに、内科教育の実践・外来研修の場として重視しています．

3) 兵庫県立尼崎総合医療センター内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします．

4) 基幹施設である兵庫県立尼崎総合医療センターは、兵庫県阪神南医療圏の中心的な高度急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核であります．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携も経験できます．

5) 基幹施設である兵庫県立尼崎総合医療センターでの 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，80 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）（以下「J-OSLER」という。）に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.97 別表 1「兵庫県立尼崎総合医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

6) 兵庫県立尼崎総合医療センター内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，3 年型では専門研修 2 年目か 3 年目に 1 年間，4 年型では原則として専門研修 4 年目の 1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．

7) 基幹施設である兵庫県立尼崎総合医療センターでの 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも

通算で 56 疾患群，120 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できます．可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします（P97 別表 1「兵庫県立尼崎総合医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は，1）高い倫理観を持ち，2）最新の標準的医療を実践し，3）安全な医療を心がけ，4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

1）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
2）内科系救急医療の専門医
3）病院での総合内科（Generality）の専門医
4）総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，兵庫県阪神南医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により，兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 18 名とします．

1）兵庫県立尼崎総合医療センター後期研修医は，現在 3 学年併せて 47 名で 1 学年 14～18 名の実績があります．
2）兵庫県管轄公立病院として雇用人員数に一定の制限があるので，募集定員の大幅増は現実性に乏しいです．
3）剖検体数は,2023 年度 10 体,2024 年度 18 体, 2025 年度 12 体です．

表．兵庫県立尼崎総合医療センター診療科別診療実績

2025 年実績	入院患者実数（人/年）	外来延患者数（延人数/年）
消化器内科	2, 102	37, 335
循環器内科	2, 640	43, 993
糖尿病・内分泌内科	351	23, 048
腎臓内科	536	9, 225
呼吸器内科	1, 232	20, 754
血液内科	905	22, 034
脳神経内科	910	17, 470
救急総合診療	625	4, 672
膠原病リウマチ内科	232	13, 814

4) 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P.19「兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群」参照）.

5) 1 学年 18 名の専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，80 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です.

6) 3 年型では専攻医 2 年目(もしくは 4 年型では 4 年目)に研修する連携施設には，高次機能 8 施設，地域基幹病院施設および地域医療密着型病院 24 施設，計 32 施設あり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です.

8) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群，120 症例以上の診療経験は達成可能です.

3. 専門知識・専門技能とは

1) 専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］

専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます.

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします.

2) 専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］

内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します．さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります．これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません.

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1）到達目標【整備基準 8～10】（P.97 別表 1「兵庫県立尼崎総合医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します．

○専門研修（専攻医）1 年:　3 年型プログラム・4 年型プログラム共通

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，40 症例以上を経験し，J-OSLER にその研修内容を登録します．以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます．
・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録します．
・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます．
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います．

○専門研修（専攻医）2 年:　3 年型プログラム・4 年型プログラム共通

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，80 症例以上の経験をし，J-OSLER にその研修内容を登録します．
・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します．
・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます．
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医， Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる
・360 度評価を複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．
・3 年型プログラムでは，1 年間の連携施設での研修を行います．4 年型プログラムでは，基幹施設で引き続き内科および Subspecialty 研修を継続します．

○専門研修（専攻医）3 年:　3 年型プログラム

・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，J-OSLER にその研修内容を登録します．
・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します．
・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます．査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します．但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します．
・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます．
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる

360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります．

○専門研修（専攻医）4 年:　4 年型プログラムのみ

4 年型プログラムでは，到達目標は 4 年でかまわないことになりますが，同学年の 3 年型プログラムに合わせて，3 年目の目標到達を目指して指導します．

・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，J-OSLER にその研修内容を登録します．

・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します．

・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます．査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します．但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します．

・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます．

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります．

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例以上の経験を必要とします． J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します．

兵庫県立尼崎総合医療センター内科施設群専門研修では，「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します．

2）臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記１）～5）参照）．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します．代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします．

① 内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院

から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します.

② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科カンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます.

③ 救命救急センターの外来（平日夕方）で内科領域の救急診療の経験を積みます.

④ 当直医として病棟急変などの経験を積みます.

⑤ 要に応じて，Subspecialty 診療科検査を担当します.

3）臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1）内科領域の救急対応，2）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，3）標準的な医療安全や感染対策に関する事項，4）医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，5）専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて，以下の方法で研鑽します.

① 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会
※ 内科専攻医は年に 2 回以上受講します.

② CPC（基幹施設 2023 年度実績 7 回,2024 年度 5 回,2025 年度 5 回）

③ 研修施設群合同カンファレンス

④ 地域参加型のカンファレンス

⑤ JMECC 受講（基幹施設 2023 年度実績 1 回,2024 年度 2 回,2025 年度 2 回）
※ 内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します.

⑥ 内科系学術集会（下記「7．学術活動に関する研修計画」参照）

⑦ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

など

4）自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した)，B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています．（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します.

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信

② 日本内科学会雑誌にある MCQ

③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5）研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します.

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います．
・専攻医による逆評価を入力して記録します．
・全29症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います．
・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します．
・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します．

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13, 14】

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（P.19「兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群」参照）．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である兵庫県立尼崎総合医療センター臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します．

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6, 12, 30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります．

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても，

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする．
② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM;evidencebasedmedicine）．
③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）．
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う．
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く．

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します．併せて，

⑥ 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う．
⑦ 後輩専攻医の指導を行う．
⑧ メディカルスタッフを尊重し，指導を行う．

を通じて，内科専攻医としての教育活動を行います．

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院のいずれにおいても，

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）．
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します．
② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います．
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います．
④ 内科学に通じる基礎研究を行います．

を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします．

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います.

なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します.

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となる，コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です.

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記 1）～10）について積極的に研鑽する機会を与えます．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である兵庫県立尼崎総合医療センター臨床研修センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します.

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます.

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11, 28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群研修施設は兵庫県阪神南医療圏，近隣医療圏の医療機関から構成されています.

兵庫県立尼崎総合医療センターは，兵庫県阪神南医療圏の中心的な高度急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます.

連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，地域基幹病院である田附興風会北野病院（大阪），日本赤十字社大阪赤十字病院（大阪），関西電力病院（大阪）, 大阪府済生会中津病院（大阪）,大阪府済生会吹田病院（大阪）, 大阪府済生会野江病

院（大阪）,大阪市立総合医療センター（大阪），住友病院（大阪）,淀川キリスト教病院（大阪），神戸市立医療センター中央市民病院（兵庫）, 神鋼記念病院（兵庫）,西神戸医療センター（兵庫），加古川医療センター（兵庫）,京都市立病院（京都）,京都桂病院（京都）,日本赤十字社和歌山医療センター（和歌山）, 天理よろづ相談所病院（奈良），日本赤十字社大津赤十字病院（滋賀）, 滋賀県立総合病院（滋賀）,倉敷中央病院（岡山），日本赤十字社福井赤十字（福井）,静岡県立総合病院（静岡），および地域医療密着型病院である公立豊岡病院組合立豊岡病院（兵庫），国立兵庫中央病院（兵庫）,高次機能・専門病院である京都大学医学部附属病院（京都），神戸大学医学部附属病院（兵庫），国立循環器病研究センター病院（大阪）, 大阪医科薬科大学病院（大阪）, 大阪公立大学医学部病院附属病院（大阪）,大阪大学医学部附属病院（大阪）,奈良県立医科大学附属病院（奈良）,香川大学医学部附属病院（香川）で構成しています.

地域基幹病院では，兵庫県立尼崎総合医療センターと異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます.

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します.

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます.

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群(P.19)は，兵庫県阪神南医療圏，近隣医療圏および近畿各府県の医療機関から構成しています．兵庫県立尼崎総合医療センターから公共交通機関で 30～60 分圏内の施設も多く，転居することなく落ち着いて研修を継続できます.

10.　地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

兵庫県立尼崎総合医療センター内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています.

兵庫県立尼崎総合医療センター内科施設群専門研修では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携も経験できます.

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

図 1-1　兵庫県立尼崎総合医療センター3 年型内科専門研修プログラム：一般型(概念図)

研修年	場所・内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻医研修1年目	研修場所	尼崎総合医療センター											
	内科	内科										救急総合診療2ヶ月	
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修2年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設※1											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修3年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設※1											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											

図 1-2　兵庫県立尼崎総合医療センター3 年型内科専門研修プログラム：地域優先型(概念図)

研修年	場所・内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻医研修1年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設のいずれか											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修2年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設のいずれか											
	内科	内科										救急総合診療2ヶ月	
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修3年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設のいずれか											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											

※ 3 年間のうち少なくとも 1 年間を基幹施設である尼崎総合医療センターで研修を行う．モデルは 2 年目に尼崎総合医療センターで研修するケースである．

図 1-3　兵庫県立尼崎総合医療センター4 年型内科専門研修プログラム(概念図)

研修年	場所・内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻医研修1年目	研修場所	尼崎総合医療センター											
	内科	内科										救急総合診療2ヶ月	
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修2年目	研修場所	尼崎総合医療センター（か連携施設のいずれか）※2											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修3年目	研修場所	尼崎総合医療センター（か連携施設のいずれか）※2											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修4年目	研修場所	尼崎総合医療センター（か連携施設のいずれか）※2											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											

尼崎総合医療センターの内科専門研修プログラムは，「3 年型内科専門研修プログラム　一般型」が基本です．連携施設が 4 年型プログラムを採用している場合にのみ「4 年型内科研修プログラム」を適用します．

(1)　3 年型内科専門研修プログラム：一般型

基本的に内科とサブスペシャリティの連動研修です．基幹施設である尼崎総合医療センターで，専門研修（専攻医）2 年間研修します．1 年目の 2 ヶ月間は内科研修として「救急総合診療」研修を行います．専攻医 2 年目（もしくは 3 年目）の 1 年間を連携施設で研修し、地域医療や内科不足領域を研修します.

専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します．病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間，原則として基幹施設で研修をします（図 1－1）.

(2)　3 年型内科研修プログラム：地域優先型

基本的に内科とサブスペシャリティの連動研修です．基幹施設である尼崎総合医療センターで、1 年間以上研修を行いますが、その時期は 3 年間の研修中いずれの時期でも可としています．最大で 2 年間地域優先で研修します．　（図 1－2）

(3)　4 年型内科研修プログラム

基本的に内科とサブスペシャリティの連動研修です．基幹施設である尼崎総合医療センターで，専門研修（専攻医）1 年間以上研修します．1 年目の 2 ヶ月間は内科研修として「救急総合診療」研修を行います．2 年目 3 年目も原則として基幹施設で研修し，4 年目の 1 年間は連携施設で研修します.

専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，連携研修施設を調整し決定します．病歴提出を終える専門研修（専攻医）4 年目ですが，3 年型プログラム同様に 3 年目に病歴要約をまとめます．（図 1－3）.

12.　専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19～22】

（1）兵庫県立尼崎総合医療センター臨床研修センターの役割

- 兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修管理委員会の事務局を行います.
- 兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER を基にカテゴリー別の充足状況を確認します.
- J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による J-OSLER への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
- 6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
- 6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
- 年に複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います．その結果は J-OSLER を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って，改善を促します.
- 臨床研修センターは，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に）行います．担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員などから，接点の多い職員

2 人を指名し，評価します．評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で，臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 2 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）．その結果は J-OSLER を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います．

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）　に対応します．

（2）専攻医と担当指導医の役割

・　専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム委員会により決定されます．

・専攻医は J-OSLER にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います．

・専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，40 症例以上の経験と登録を行うようにします．2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，80 症例以上の経験と登録を行うようにします．3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，120 症例以上の経験の登録を修了します．それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します．

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します．

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います．

・専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，J-OSLER に登録します．担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行う必要があります．専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します．これによって病歴記載能力を形成的に深化させます．

（3）評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します．その結果を年度ごとに兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修管理委員会で検討し，統括責任者が承認します．

（4）修了判定基準【整備基準 53】

1）担当指導医は，J-OSLER を用いて研修内容を評価し，以下ⅰ)～ⅵ)の修了を確認します．

ⅰ）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を J-OSLER に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経

験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済み（P.97 別表 1「兵庫県立尼崎総合医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）.

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii）所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv）JMECC 受講

v）プログラムで定める講習会受講

vi）J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2）兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

（5）プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，J-OSLER を用います．なお，「兵庫県立尼崎総合医療センター内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】と別に示します.

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34, 35, 37～39】

（P. 95「兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修管理員会」参照）

1）兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります．内科専門研修プログラム管理委員会は，統括責任者（教育部長），事務局代表者，内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（P.95 兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会参照）．兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修管理委員会の事務局を，兵庫県立尼崎総合医療センター臨床研修センターにおきます.

ii）兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します．委員長 1 名（指導医）は，基幹施設との連携のもと，活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年 10 月と 3 月に開催する兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修管理委員会の委員として出席します.

基幹施設，連携施設ともに，毎年 4 月 30 日までに，兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います.

① 前年度の診療実績

a） 病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d) 1 か月あたり内科外来患者数，e)1 か月あたり内科入院患者数，f)剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績，b)今年度の指導医数/総合内科専門医数，c)今年度の専攻医数，d)次年度の専攻医受け入れ可能人数.

③ 前年度の学術活動

a） 学会発表，b)論文発表

④ 施設状況

a) 施設区分，b)指導可能領域，c)内科カンファレンス，d)他科との合同カンファレンス，e)抄読会，f)机，g)図書館，h)文献検索システム，i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j)JMECC の開催.

⑤ Subspecialty 領域の専門医数

日本内科学会総合内科専門医 31 名，日本消化器病学会消化器専門医数 10 名，日本肝臓学会専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医数 18 名，日本内分泌学会専門医数 3 名，日本糖尿病学会専門医数 3 名，日本腎臓病学会専門医数 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医数 4 名，日本血液学会血液専門医数 3 名，日本神経学会神経内科専門医数 8 名，日本リウマチ学会専門医数 4 名，日本救急医学会救急科専門医数 3 名, 日本老年医学会専門医 1 名　ほか

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18, 43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します.

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．指導者研修（FD）の実施記録として，J-OSLER を用います.

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を遵守することを原則とします.

3 年型専門研修_一般型（専攻医）は原則として 1 年目， 3 年目は基幹施設である兵庫県立尼崎総合医療センターの就業環境に，専門研修（専攻医）2 年目 1 年は連携施設の就業環境に基づき，就業します（P.19「兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群」参照）．4 年型専門研修（専攻医）1 年以上は基幹施設である兵庫県立尼崎総合医療センターの就業環境に，専門研修（専攻医）1 年以上は連携施設の就業環境に基づき，就業します（P.19「兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群」参照）．3 年型専門研修_地域優先型は，1 年間以上を 基幹施設である兵庫県立尼崎総合医療センターの就業環境に，専門研修（専攻医）1 年以上を連携施設の就業環境に基づき，就業します（P.19「兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群」参照）.

基幹施設である兵庫県立尼崎総合医療センターの整備状況：

- 研修に必要なメディカルライブラリーとインターネット環境があります.
- 兵庫県会計年度任用職員として労務環境が保障されています.
- メンタルストレスに適切に対処する部署があります.
- ハラスメント委員会が整備されています.
- 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
- 敷地内に院内保育所及び病児・病後児保育所があり，利用可能です.

専門研修施設群の各研修施設の状況については，P.19「兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門施設群」を参照．また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります.

16.　内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1）専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は年に複数回行います．また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．また集計結果に基づき，兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます．

2）専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会，兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します．把握した事項については，兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します．

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします．

- 担当指導医，施設の内科研修委員会，兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラムを評価します．
- 担当指導医，各施設の内科研修委員会，兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます．状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます．

3）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

兵庫県立尼崎総合医療センター臨床研修センターと兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は，兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じて兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラムの改良を行います．

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します．

17.　専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，日本内科学会及び日本専門医機構の指示に従い、website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．翌年度のプログラムへの応募者は，日本内科学会

及び日本専門医機構の指示に従い，兵庫県立尼崎総合医療センター臨床研修センターの website の兵庫県立尼崎総合医療センター医師募集要項（兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します．書類選考および面接を行い，兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します．詳細は兵庫県立尼崎総合医療センターHP に掲載いたします．

(問い合わせ先) 兵庫県立尼崎総合医療センター臨床研修センター

E-mail:rinshokenshu@agmc.hyogo.jp　　HP: http://agmc.hyogo.jp/

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく J-OSLER にて登録を行います．

18.　内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に J-OSLER を用いて兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です．

他の領域から兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，J-OSLER への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります．

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行うことによって，研修実績に加算します．留学期間は，原則として研修期間として認めません．

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群
（地方型一般病院のモデルプログラム）

図 1-1　研修期間：3 年型一般型（基幹施設研修 2 年間＋連携施設 1 年間）

研修年	場所・内容	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
専攻医研修 1 年目	研修場所	尼崎総合医療センター											
	内科	内科										救急総合診療2ヶ月	
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修 2 年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設※1											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修 3 年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設※1											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											

図 1-2　研修期間 3 年型地域優先型（基幹施設 1 年間以上＋連携 1 年間以上）

研修年	場所・内容	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
専攻医研修 1年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設のいずれか											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修 2年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設のいずれか											
	内科	内科										救急総合診療2ヶ月	
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修 3年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設のいずれか											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											

図 1-3　研修期間：4 年型（基幹施設 1.5 年間以上＋連携施設 0.5 年間以上）

研修年	場所・内容	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
専攻医研修 1年目	研修場所	尼崎総合医療センター											
	内科	内科										救急総合診療2ヶ月	
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修 2年目	研修場所	尼崎総合医療センター（か連携施設のいずれか）※2											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修 3年目	研修場所	尼崎総合医療センター（か連携施設のいずれか）※2											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修 4年目	研修場所	尼崎総合医療センター（か連携施設のいずれか）※2											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											

図 1．兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム(概念図)

表1　兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群研修施設

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖件数
基幹施設	兵庫県立 尼崎総合医療センター	730	286	16	43	28	12
連携施設	北野病院	685	305	9	13	23	7
連携施設	大阪赤十字病院	846	250	10	29	23	9
連携施設	関西電力病院	400	191	10	24	21	4
連携施設	豊岡病院	528	169	8	15	7	4
連携施設	大津赤十字病院	672	301	8	17	29	7
連携施設	和歌山医療ｾﾝﾀｰ	700	243	10	24	37	6
連携施設	天理よろづ相談所病院	687	305	7	37	33	10
連携施設	神戸市立医療ｾﾝﾀｰ 中央市民病院	768	241	10	38	44	21
連携施設	済生会中津病院	670	356	10	42	26	4
連携施設	大阪市立総合医療 センター	1063	304	11	53	48	10
連携施設	京都大学附属病院	1141	309	10	114	123	13
連携施設	神戸大学附属病院	870	269	11	70	61	23
連携施設	香川大学附属病院	613	164	11	55	46	8
連携施設	倉敷中央病院	1172	445	10	73	54	12
連携施設	国立循環器病 研究センター病院	527	279	11	72	50	21
連携施設	滋賀県立総合病院	635	239	13	20	29	4
連携施設	福井赤十字病院	534	229	6	15	20	13
連携施設	静岡県立総合病院	712	379	9	48	34	12
連携施設	住友病院	499	287	9	32	31	15
連携施設	京都市立病院	548	不定	13	27	21	7
連携施設	神鋼記念病院	333	171	9	23	17	13
連携施設	済生会吹田病院	440	176	7	15	11	6
連携施設	淀川キリスト教病院	581	265	11	29	35	5
連携施設	西神戸医療センター	470	161	9	19	21	4
連携施設	大阪医科薬科大学病院	850	268	9	56	51	18
連携施設	奈良県立医科大学病院	992	244	10	112	71	11
連携施設	国立兵庫中央病院	460	410	6	14	11	0
連携施設	京都桂病院	551	281	11	29	28	5
連携施設	済生会野江病院	400	188	10	28	15	8

連携施設	大阪公立大学附属病院	965	234	234	93	75	9
連携施設	大阪大学附属病院	1086	271	10	82	145	4
連携施設	兵庫県立 加古川医療センター	307	122	9	18	13	4
研修施設合計		22415	8342	547	1379	1281	300

※剖検数は 2025 年度

表 2.各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
兵庫県立尼崎 総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北野病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
関西電力病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
公立豊岡病院組合 立豊岡病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大津赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
和歌山医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
天理よろづ相談所病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立医療センター 中央市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
済生会中津病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪市立総合医療 センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
京都大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
香川大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
倉敷中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立循環器病 研究センター病院	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×
滋賀県立総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福井赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
静岡県立総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
住友病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
京都市立病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
神鋼記念病院	○	○	○	△	○	△	○	○	○	△	○	△	○
済生会吹田病院	○	○	○	×	○	○	○	×	○	△	△	△	△
淀川キリスト教病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
西神戸医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

大阪医科薬科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
奈良県立医科大学病院	△	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○
国立兵庫中央病院	○	○	×	△	○	△	○	×	○	△	△	△	△
京都桂病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○
済生会野江病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○
大阪公立大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△
兵庫県立 加古川医療センター	○	○	△	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○

各研修施設での内科13領域における診療経験の研修可能性を3段階（○，△，×）に評価しました。〈○：研修できる，△：時に経験できる，×：ほとんど経験できない〉

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群研修施設は兵庫県，大阪府，京都府，滋賀県，和歌山県，奈良県，岡山県，香川県，福井県，静岡県の 2 府 8 県にわたる 32 医療機関から構成されています．

兵庫県立尼崎総合医療センターは，兵庫県阪神南医療圏の中心的な高度急性期病院です．そこでの研修は，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，地域基幹病院である田附興風会北野病院（大阪），日本赤十字社大阪赤十字病院（大阪），関西電力病院（大阪），大阪府済生会中津病院（大阪），大阪府済生会吹田病院（大阪），大阪府済生会野江病院（大阪），大阪市立総合医療センター（大阪），住友病院（大阪），淀川キリスト教病院（大阪），神戸市立医療センター中央市民病院（兵庫），神鋼記念病院（兵庫），西神戸医療センター（兵庫），加古川医療センター（兵庫），京都市立病院（京都），京都桂病院（京都），日本赤十字社和歌山医療センター（和歌山），天理よろづ相談所病院（奈良），日本赤十字社大津赤十字病院（滋賀），滋賀県立総合病院（滋賀），倉敷中央病院（岡山），日本赤十字社福井赤十字（福井），静岡県立総合病院（静岡），および地域医療密着型病院である公立豊岡病院組合立豊岡病院（兵庫），国立兵庫中央病院（兵庫），高次機能・専門病院である京都大学医学部附属病院（京都），神戸大学医学部附属病院（兵庫），国立循環器病研究センター病院（大阪），大阪医科薬科大学病院（大阪），大阪公立大学附属病院（大阪），大阪大学附属病院（大阪），奈良県立医科大学病院（奈良），香川大学医学部附属病院（香川）で構成しています．

地域基幹病院では，兵庫県立尼崎総合医療センターと異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます．

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します．

全員が地域密着型病院と地域基幹病院で研修ができるようプログラム配慮しています．

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．

専門研修施設（連携施設）の選択

・専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，研修施設を調整し決定します．原則として 3 年型プログラム一般型を採用していますが，連携施設によっては 4 年型プログラムになる可能性があります．3 年型か 4 年型プログラムの決定においては，専攻医の希望も考慮します．

・3 年型プログラム一般型では専攻医 2 年目の 1 年間，地域優先型では最大 2 年間、4 年型プログラムでは 1 年間以上を連携施設で研修をします（図 1－1～3）．

・

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群(P.19)は，兵庫県阪神南医療圏，近隣医療圏および近畿各府県の医療機関から構成しています．兵庫県立尼崎総合医療センターから公共交通機関で 30～60 分圏内の施設が多く、転居することなく落ち着いて研修を継続できます．

1) 専門研修基幹施設

兵庫県立尼崎総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要なメディカルライブラリーとインターネット環境があります.学術情報が検索できるデータベース・サービス(Cochrane, Libraly, ClinicalKey, DynaMed, MEDLINEComplete, Medicalonline, 医中誌web など利用できます. ·当院での研修中は、兵庫県会計年度任用職員として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所及び病児・病後児保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 43 名在籍しています（下記）. ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（教育部長：総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2023 年度開催 7 回,2024 年度 5 回,2025 年度 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催 1 回,2024 年度 2 回,2025 年度 2 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 10 体,2024 年度 18 体 2024 年度 12 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2023 年度実績 2 回,2024 年度 3 回,2025 年度 2 回）しています. ·治験管理室(クリニカルリサーチセンター)を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2023 年度実績 12 回,2024 年度 12 回,2025 年度 12 回）しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度 9 演題,2024 年度 9 演題,2025 年度 8 演題）をしています.
指導責任者	田中　麻理 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立尼崎総合医療センター（AGMC）は、兵庫県阪神医療圏の中心的な高度急性期病院です．転居することなく，通勤可能圏内での連携施設

	研修ができる選択肢があります．研修施設群には十分な症例数があり、専門研修 1 年目と 2 年目で症例目標は達成できると考えています． 当院内科系専門診療科のモットーは、「ジェネラルにも対応できる専門医養成」です．下欄に示すように内科系サブスペシャリティ専門医・指導医を多数擁しております．内科専門医研修でジェネラルをおさえつつ、サブスペシャリティを究めていただきたい．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 45 名、日本内科学会総合内科専門医 31 名、 日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本肝臓学会専門医 5 名、 日本循環器学会循環器専門医 18 名、日本内分泌学会専門医 3 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 8 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本老年学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名　ほか ※内科系診療科のみ
外来・入院患者数	外来延患者 17,015 名（1 ヶ月平均）　入院患者実数 9,865（1 ヶ月平均）※内科系のみ
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定専門医教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本東洋医学会専門医教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医訓練施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医診療施設 日本心血管インターベーション学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 胸部・腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設 など

2) 専門研修連携施設

1．田附興風会北野病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報が検索できるデータベース・サービス（UpToDate、Cochrane Library、Clinical key、 Medical online、科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)、CiNii（NII 学術情報ナビゲータ）他、多数）が院内のどの端末からも利用できます。 ・公益財団法人田附興風会　医学研究所北野病院の常勤医師としての労務環境が保証されています。 ・院内には職員食堂があり、宿日直時は食事補助があります。（昼食・夜食：弁当支給、朝食：院内のコーヒーショップの食券を配布） ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・休憩室、更衣室、当直室を整備しています。 ・院内保育所があり、病児保育も利用可能です。院内保育所利用者に限り自動車通勤が可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医は１３名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者（主任部長）（ともに指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と医師卒後教育センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全講習会・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医師卒後教育センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・医の倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 4 演題以上の学会発表をしています。

指導責任者	北野　俊行 【内科専攻医へのメッセージ】 　北野病院は連携施設と協同して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。
指導医数 （常勤医）	内科指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、日本消化器病学会消化器病専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本内分泌学会内分泌代謝専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、日本透析医学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 3 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名など
外来・入院患者数(年間)2025 年度	外来：1,641.8 名（全科 1 日平均：2025 年度実績） 入院：200,616 名（全科 2025 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会専門医制度研修施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

2. 日本赤十字社大阪赤十字病院

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪赤十字病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに関する相談体制が大阪赤十字病院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院に隣接した契約保育所があり、利用可能です。
2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	・指導医は 29 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者（診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修推進室を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのために時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・他研修施設と合同カンファレンス、地域参加型のカンファレンス（日赤フォーラム、大阪赤十字病院懇話会、消化器フォーラム等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修推進室が対応します。 ・特別連携施設（日本赤十字社　多可赤十字病院）の専門研修では、電話などにより指導医がその施設での研修指導を行います。
3）診療経験の環境 【整備基準 24】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療いています。 ・70 疾患のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度 6 体、2024 年度実績 17 体, 2025 年度実績 9 体）を行っています。
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	・臨床研修に必要な図書室などを整備しています。 ・医療倫理審査委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 11 回）しています。 ・治験事務局を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。

指導責任者	黄　文禧 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪赤十字病院は、天王寺区という大阪市のほぼ中央に位置する、非常にアクセスの良い大阪市医療圏の中心的な急性期病院であり、他の大阪市医療圏・近隣医療圏にある基幹施設・連携施設・特別連携施設と内科専門研修を行い、必要に応じた柔軟性のある、救急医療、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を体感・実践できる“懐深き”内科専門医になります。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医　２９名 日本内科学会総合内科専門医　２３名 日本消化器病学会消化器専門医　１２名, 日本循環器学会循環器専門医　２名 日本糖尿病学会専門医　５名 日本腎臓学会専門医　３名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　８名 日本血液学会血液専門医　８名 日本神経学会神経内科専門医　７名 日本アレルギー学会専門医（内科）１名 日本リウマチ学会専門医　２名 日本感染症学会専門医　１名 日本救急医学会救急科専門医　６名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者　12,990.6 名（1 ヶ月平均） 入院患者　　805.7 名（1 ヶ月平均）※2025 年度内科系
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）	日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本不整脈心電学会　クライオバルーンアブレーション認定施設 日本不整脈心電学会　ホットバルーンアブレーション認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本神経学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設（呼吸器内科） 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本感染症学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設　など

3. 公立豊岡病院組合立豊岡病院

1) 専攻医の環境 【整備基準 24】	･基幹型臨床研修病院(初期臨床研修)に指定されています. ･研修に必要な図書館・インターネット環境・個人用机を完備しています. ･公立豊岡病院での研修期間中の就業条件は豊岡病院と基幹施設との協定に基づき保障されます. ･メンタルストレスに適切に対処する部署(安全衛生委員会・産業医)があります. ･苦情処理委員会がハラスメントに対応します. ･女性専用の更衣室・シャワー室を完備しています. ･敷地内に院内保育所を開設しています. ･医師用宿舎を備えています.
2) 専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	･指導医が 16 名在籍しています. ･専門研修プログラム管理委員会を設置しプログラム内で研修する専攻医の研修を管理します. ･専攻医に対し，医療倫理，医療安全，感染症対策講習会の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を開催し，専攻医の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･各診療科では定期的にカンファレンスを開催し，専攻医の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･Web 会議システムを活用した地域参加型カンファレンスを定期的に開催しています. 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：但馬内科医会，但馬内科合同カンファレンス，但馬消化器疾患研究会，（Web 会議システムによる）兵庫ＧＩＭカンファレンス(月 1 回)，県養成医カンファレンス(週 1 回)） ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に教育研修部が対応します.
3) 診療経験の環境 【整備基準 24】	･カリキュラムに提示した 13 領域全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を確保しています. ･専門研修に必要な剖検数（2021 年度 5 件,2022 年度 4 件,2023 年度 1 件,2024 年度 4 件）を確保しています.
4) 学術活動の環境 【整備基準 24】	･臨床研究に必要な図書室を整備しています. ･倫理委員会を設置し，開催しています. ･治験審査委員会を設置し，開催しています. ･日本内科学会講演や地方会において学会発表を行うことが可能です. ･学会参加費を助成しています.
指導責任者	森　健太　（総合診療科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 公立豊岡病院は北兵庫地域の 528 床を有する地域中核病院であり，ドクターヘリ・ドクターカーを持つ救命救急センターもあるため，広域の医療圏から数多くの患者が集中いたします。このため，救急内科疾患をはじめ，希有な疾患から common disease まで幅広く経験していただけます。 また，我々指導医は，皆様が患者本位の全人的な医療サービスが提供できる責任感のある医師であり，かつ，学究的な医師となられるように指導させていただきます。

指導医数（常勤医）	総合内科専門医 8 名，日本神経学会専門医 2 名･指導医 2 名，日本脳卒中学会専門医 1 名・指導医 1 名，日本呼吸器学会専門医 2 名･指導医 1 名，日本アレルギー学会専門医 1 名，日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名，日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医，日本消化器病学会専門医 3 名･指導医 1 名，日本消化器内視鏡学会専門医 3 名･指導医 1 名，日本消化管学会胃腸科専門医 1 名，日本循環器病学会循環器専門医 4 名，日本腎臓学会腎臓専門医 1 名，日本透析医学会透析専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 2 名･指導医 1 名，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名，日本高血圧学会専門医 1 名・指導医 1 名，プライマリ・ケア連合学会認定医 1 名・指導医 1 名（専門領域）
外来・入院 患者数	内科系入院患者数 5,309 人/月(延数・1 ヶ月平均) 内科系外来患者数 5,324 人/月(延数・1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて，研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域（総合内科Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症，救急），70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に記載された内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することが可能.
経験できる地域医療・診療連携	【地域医療，全人的医療，病診連携・病病連携，検診の経験】 急性期医療だけでなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力を修得します. また，公立豊岡病院は，兵庫県但馬医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域に根ざす第一線の病院でもあることから，common disease の経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や在宅訪問診療などの病診連携も経験できます.
学会認定施設（内科系）	・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ・日本神経学会専門医制度教育施設 ・日本脳卒中学会認定研修教育施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設 ・日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設 ・日本消化器病学会認定施設 ・日本消化器内視鏡学会指導施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ ・日本高血圧学会専門医制度研修施設Ⅰ

4. 京都大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・医員室（院内 LAN 環境完備）・仮眠室有 ・専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。 ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	·指導医が 114 名在籍しています.（2021 年度） ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC（2021 年度 11 回　開催）、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会を含め 2021 年度は計 33 題の学会発表をしています.
指導責任者	柳田素子（腎臓内科教授） 【内科専攻医へのメッセージ】 京都大学病院は地域医療と密接に連携した高水準の診療と未来の医療を創造する臨床研究に力を注いでいます。本プログラムの目的は初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が地域の協力病院と連携して、総合力にも専門性にも優れた内科医を養成することです。患者中心で質の高い安全な医療を実現するとともに、新しい医療の開発と実践を通して社会に貢献し、専門家の使命と責任を自覚する志高く人間性豊かな医師を育成します。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 114 名 日本内科学会総合内科専門医 123 名 日本消化器病学会消化器専門医　38 名 日本肝臓学会専門医 9 名 日本循環器学会循環器専門医 22 名 日本内分泌学会専門医 20 名 日本糖尿病学会専門医 27 名 日本腎臓病学会専門医 21 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 35 名, 日本血液学会血液専門医 25 名 日本神経学会神経内科専門医 48 名, 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名 日本リウマチ学会専門医 16 名 日本感染症学会専門医 10 名ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者 279,649 名（2021 年度延べ数）

	内科系入院患者 96,983 名（2021 年度延べ数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	（社）日本血液学会認定専門研修認定施設 （財）日本骨髄バンク（社）日本造血・免疫細胞療法学会非血縁者間骨髄採取認定施設 （財）日本骨髄バンク非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設 （社）日本造血・免疫細胞療法学会非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科 （財）日本さい帯血バンクネットワークさい帯血移植認定施設 （公）日本臨床腫瘍学会認定研修施設 （社）日本 HTLV-1 学会登録医療機関 （社）日本内分泌学会認定教育施設 （社）日本糖尿病学会認定教育施設 （社）日本甲状腺学会認定専門医施設 （社）日本肥満学会認定肥満症専門病院 （特）日本高血圧学会専門医認定施設 （社）日本病態栄養学会認定栄養管理・ＮＳＴ実施施設 （社）日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設 （社）日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 関連１０学会構成ステントグラフト実施基準管理委員会胸部大動脈瘤ステントグラフト実施施設 関連１０学会構成ステントグラフト実施基準管理委員会腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 （社）日本心血管インターベーション治療学会研修施設 （社）日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 ASD 閉鎖栓を用いた ASD 閉鎖術施行施設 （社）日本成人先天性心疾患専門医総合修練施設 （社）日本動脈硬化学会専門医教育病院 （社）日本磁気共鳴医学会　MRI 対応植込み型不整脈治療デバイス患者の MRI 検査実施施設 （社）日本不整脈心電図学会　経静脈的リード抜去術認定施設 卵円孔開存閉鎖術実施施設 左心耳閉鎖システム認定施設 トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するビンダケル導入施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設 （財）日本消化器病学会認定施設 （社）日本消化器内視鏡学会指導施設 （社）日本肝臓学会認定施設

5. 神戸大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書館とインターネット環境があります. ·医学部附属病院研修中は、医員として労務環境が保障されます. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があり、ハラスメント委員会も整備されています. ·女性専攻医のための更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病院職員としての利用が可能です（但し、数に制限あることと事前に申請が必要です）.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 70 名在籍しています. ·内科専攻医研修委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として年２回開催し，専攻医にも受講を義務付けます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており，専攻医に特定数以上の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 11 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で約 25 演題の学会発表をしています.
指導責任者	坂口一彦 （糖尿病・内分泌・総合内科学分野） 【内科専攻医へのメッセージ】神戸大学医学部附属病院内科系診療科は，連携する関連病院と協力して，内科医の人材育成や地域医療の維持・充実に向けて活動を行っていきます．医療安全を重視し，患者本位の標準的かつ全人的な医療サービスが提供でき，医学の進歩にも貢献できる責任感のある医師を育成することを目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 70 名，日本内科学会総合内科専門医 61 名 日本消化器病学会消化器専門医 64 名，日本肝臓学会肝臓専門医 23 名，日本循環器学会循環器専門医 22 名，日本内分泌学会専門医 12 名， 日本糖尿病学会専門医 26 名，日本腎臓病学会専門医 10 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 12 名，日本血液学会血液専門医 19 名，日本神経学会神経内科専門医 15 名，日本アレルギー学会専門医（内科）3 名，日本リウマチ学会専門医 17 名，日本感染症学会専門医 5 名，日本救急医学会救急科専門医 9 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 12919 名（内科のみの 1 ヶ月平均）入院患者 447 名（内科のみの 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができますが， 大学病院での研修は短期間なので， 希望により研修科を選択いただきます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが、内科医にとって必須である地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．大学病院ならではの専門・最先端医療も是非経験いただきたいと考えています.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会総合内科専門医認定教育施設 日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定病院 日本消化器病学会消化器病専門医認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修 日本呼吸器学会呼吸器専門医認定施設 日本血液学会血液専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本糖尿病学会糖尿病専門医認定教育施設 日本腎臓学会腎臓専門医研修施設 日本肝臓学会肝臓専門医認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本感染症学会感染症専門医研修施設 日本老年医学会老年病専門医認定施設 日本神経学会神経内科専門医教育施設 日本リウマチ学会リウマチ専門医教育施設 日本集中治療医学会集中治療専門医専門医研修施設

6. 天理よろづ相談所病院

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·内科専攻医もしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	·指導医が 37 名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 医療安全・感染対策　E-learning 開催）します。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）します。
3）診療経験の環境 【整備基準 24】	カリキュラムに示す内科領域 13 分野を定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2019 年度実績 10 演題）をしています.
指導責任者	羽白　高 【内科専攻医へのメッセージ】 来る高齢化社会では患者の 1 つの病気をただ治すといった治療モデルでは難しく、多疾患の同時並行的な治療を求められる。またキュアからケアへの移行、患者との死生観の共有が必要と考えられる。天理よろづ相談所病院は昭和 51 年よりレジデント制度を開始し、昭和 53 年よりシニアレジデントの内科ローテイトコースを行っている。また奈良県東和医療圏の急性期病院として役割を担っている。これらの経験を活かし、専門的な臓器別診療だけではなく、内科全般や更に医療周辺の社会機構にわたる幅広い知識や経験を基礎にバランスよく患者を診療する能力をもった内科医を養成したいと考えている。

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 37 名 日本内科学会総合内科専門医 33 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本内分泌学会専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名 日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 1 名ほか
外来・入院 患者数	外来：約 1,800 名（1 日平均） 入院：約 500 名（1 日平均延）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本感染症学会専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設（胸部） ステントグラフト実施施設（腹部） 日本内分泌学会内分泌学会認定教育施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌･甲状腺外科学会専門医制度認定施設　など

7. 日本赤十字社大津赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 大津赤十字病院医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ ハラスメントに関する委員会が大津赤十字病院内規程に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 17 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（副院長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 9 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検（2020 年度 6 体、2021 年実績 8 体、2022 年実績　5 体、2023 年実績　4 体、2024 年実績　7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治験審査委員会を設置し、受託研究審査会を開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	河南　智晴 【内科専攻医へのメッセージ】 滋賀県下で最大病床数の基幹病院としての特徴を生かし、高度な研修が可能です。例えば、以前からの救命救急センターが平成 25 年 8 月には改めて高度救命救急センターの指定を受けています。その他、68 項目の研修認定施設で、将来どの分野を専攻するにしても、充実した指導体制の中で高度な研修ができます。中でも内科は、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、血液・免疫内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、化学療法科の 8 診療科がそれぞれの専門性を保ちつつも緊密に協力しており、総

	合的で、かつ救急にも対応できる研修が可能です。積極的な参加を期待します。
指導医数 （常勤医）	17 名　（総合内科専門医 29 名）
外来・入院 患者数	外来患者 29,253 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,539 名（1 ヶ月平均） 2024 年 4 月 － 2025 年 3 月実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本血液学会認定医血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 非血縁者間骨髄移植認定施設 日本老年医学会認定施設 日本てんかん学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導施設

8. 日本赤十字社和歌山医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·日本赤十字社和歌山医療センター常勤嘱託医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります. ·ハラスメントに適切に対処する，苦情・相談体制が整っています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·隣接地に院内保育所，センター内に病児保育があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 24 名在籍しています．(2026 年 4 月現在). ·内科専門医研修プログラム管理委員会が設置されており，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門医研修委員会を設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 2 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·その他、事務対応，施設実地調査は業務部研修課が対応します.
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 8 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます. ·専門研修に必要な剖検（2022 年度 6 体、2023 年度 1 体、2024 年度 4 体、2025 年度 6 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室（24 時間利用可），統計解析ソフト JMP などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 3 演題）をしています.
指導責任者	静田　聡　（循環器内科主任部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　日本赤十字社和歌山医療センターは，和歌山県和歌山医療圏の中心的な急性期病院であり，三次医療圏・近隣医療圏にある連携・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 　主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数	日本内科学会指導医 24 名

（常勤医）	~~日本内科学会認定内科医 27 名~~ 日本内科学会総合内科専門医 37 名 日本消化器病学会専門医 8 名 日本肝臓学会肝臓専門医 7 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本内分泌学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本腎臓学会専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名 日本血液学会専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 7 名 日本感染症学会専門医 3 名 日本救急医学会救急科専門医 6 名 日本老年病学会専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の延外来患者 161,475 名 内科の新入院患者　8,986 名（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度准教育関連施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設 非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 非血縁者間末梢血幹細胞移植・採取認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本肥満症学会認定肥満症専門病院 日本心身医学会研修施設　ほか

9. 神戸市立医療センター中央市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸市立医療センター中央市民病院の任期付正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対応出来るよう相談窓口（市役所）を設置及び産業医を配置しています。 ・ハラスメントの防止及び排除並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合、迅速かつ適切な問題解決を図るためハラスメント相談窓口及びハラスメント防止対策委員会を設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 38 名在籍しています（下記）。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療安全：6 回、感染対策：2 回、医療倫理：1 回）し、　専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（腹部超音波カンファレンス、びまん性肺疾患勉強会、がんオープンカンファレンス、緩和ケアセミナー　など 2025 年度実績 32 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 27 体、2024 年度実績 25 体、2025 年度実績 21 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、学術支援センターなどを設置しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究推進センターを設置しています。 ・定期的に IRB、受託研究審査会を開催（2025 年度実績各 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 8 演題）をしています。
指導責任者	古川　裕 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の診療体制の大きな特徴は、北米型 ER（救命救急室）、つまり 24 時間・365 日を通して救急患者を受け入れ、ER 専任医によって全ての科の診断および初期治療を行い、必要に応じて各専門科にコンサルトするというシステムにあります。年間の救急外来患者数は 26,000 人以上、救急車搬入患者数も 8,000 人を超え、独立した救急部と各科スタッフ、初期研修医、専攻医が緊密に連携して、軽傷から重症までのあらゆる救急患者に対応し

	ています。この中で専攻医は初期研修から各科の専門的診療に至る過程で重要な役割をはたしており、皆さんがどの診療科を選択しても、大学病院など 3 次救急に特化した施設では得られない、医療の最前線の広範な経験を重ねることができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 39 名 日本内科学会総合内科専門医 44 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名 日本アレルギー学会専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 6 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名 日本感染症学会専門医 4 名 日本腎臓学会専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名 日本呼吸器学会老年病専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 8 名 日本肝臓学会肝臓専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 8 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 6 名 日本救急医学会救急科専門医 17 名　　ほか
外来・入院 患者数	外来患者　34,980 名（1 ヶ月平均）2025 年度 入院患者　20,318 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム　基幹施設 日本老年医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会指定研修施設 呼吸器専門研修プログラム　基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設

	日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本感染症学会研修施設 日本環境感染学会教育施設 日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士実地修練認定教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本禁煙学会教育施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本臨床腫瘍内科学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門研修施設 救急科専門医指定施設　　など

10. 大阪府済生会中津病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	·初期臨床研修制度研修指定病院（基幹型・協力型）です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·済生会中津病院専攻医として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ·ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	·指導医は 35 名在籍しています。 ·研修委員会：各内科系診療科の代表・臨床教育部部長などで構成され，基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。 ·研修委員会と臨床教育部で専攻医の研修状況を管理し、プログラムに沿った研修ができるよう調整します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·各診療科が参加している地域参加型のカンファレンスに専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちほぼ全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ·専門研修に必要な剖検（2021 年度 4 体、2022 年度 6 体、2023 年度 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ·倫理委員会を設置し、必要時に開催（2023 年度実績 2 回）しています。 ·治験審査委員会と臨床研究倫理審査委員会を設置し，審査会を開催（2023 年度実績 12 回、4 回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	高田　俊宏　（プログラム統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪府済生会中津病院は、2023 年 1 月から急性期充実加算を取得し、急性期病院としてさらなる充実と発展を遂げるべく努力をしています。2023 年 4 月からは、隣接した大淀地区に大阪北ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院が新たに開院し、従来からの訪問看護ステーション、特別養護老人ホームと合わせ、福祉医療センターとして、入院から退院、療養まで切れ目のない医療福祉サービスを地域に提供していく体制をとっています。 専攻医は、主担当医として、入院から退院＜初診・入院から退院・通院＞まで経時的に、診断・治療、退院指導、退院支援を行い、診療行為を通して、全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します。

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 35 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 4 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本老年医学会老年病専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者(内科) 13,461 名（1 ヶ月平均）　入院患者（内科）579 名（1 ヶ月平均）（2023 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度内科専門医教育病院、日本呼吸器学会認定医制度認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション学会認定研修施設、日本心血管カテーテル治療学会、日本消化器病学会認定医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本神経学会認定医制度教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本血液学会認定研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本肥満学会認定肥満症専門病院、日本感染症学会認定研修施設、日本老年医学会認定施設、日本認知症学会認定施設　など

11. 関西電力病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・関西電力病院非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（関西電力株式会社内に設置）があります. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 23 名在籍しています. ・内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修部を設置します. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：西部大阪肝胆膵疾患地域連携会・市民公開講座，市民講座　本当に大切な肝臓・胆道・肝臓，関西電力病院レントゲン読影会，関西電力病院糖尿病フォーラム，Kansai Diabetes Network Seminar，北大阪生活習慣病病診連携をすすめる会，地域の糖尿病診療を考える会，KDF 研究会，糖尿病フォーラム，中之島循環器フォーラム）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修部が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ・70 疾患群のうち 62 疾患群について研修できます（上記）. ・専門研修に必要な剖検（2020～2023 年度 24 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，インターネット環境などを整備しています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	濱野利明 【内科専攻医へのメッセージ】 関西電力病院は 400 床を有する通常の地域中核病院であり，関西電力関係者は家族も含めて全外来患者数の約 3%です. 病院は 2013 年新築で，堂島川に面し，ビル群に囲まれた美しい都会的な環境にある一方，周辺には古い下町の面影を残す地域もあります. 内科には循環器内科，血液内科，消化器内科，糖尿病・内分泌・代謝内科，腎臓内科，呼吸器内科，脳神経内科，腫瘍内科，リウマチ・膠原病内科の 10 専門科および緩和医療科があり，充実したスタッフと共に最新設備を用いた研修を受けることができます. 中規模病院であるため，診療科間の垣根が低くコンサルトが容易にできる良い伝統があります. 当院のプログラムでは，できるだけ専攻医の希望に沿ったローテートを予定しており，指導医は，知識，技術の指導を細やかに行うとともに，キャリアプラ

	ンなど様々な相談に乗ります．各専門科で早期に十分な症例数を経験できるため，後半には subspecialty を目指す研修も可能です． 　連携病院は京都大学，大阪公立大学，北野病院，大阪赤十字病院など大規模病院と相互連携している一方，守口敬仁会病院、丹後中央病院とも連携しており，最新の医療から地域医療まで広い範囲の研修が可能です． 　病院には関西電力医学研究所が併設されており，ヒトサンプルを用いた実験を通じて，臨床に根ざした医学研究が可能です． 　総合性と専門性，二兎を追ってみませんか．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 23 名，日本内科学会総合内科専門医 19 名，日本循環器学会専門医 9 名，日本消化器病学会専門医 7 名，日本消化器内視鏡学会専門医 9 名，日本肝臓学会専門医 6 名，日本糖尿病学会専門医 8 名，日本病態栄養学会専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本血液学会専門医 3 名， 日本腎臓学会専門医 3 名，日本透析医学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 3 名，日本呼吸器学会専門医 3 名，日本呼吸器内視鏡学会専門医 4 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名，日本神経学会専門医 6 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 810 名（1 日平均）入院患者 311 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本栄養療法推進協議会ＮＳＴ稼動施設認定 日本肝臓学会専門医施設認定 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本気管食道科学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本血液学会血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本認知症学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床神経生理学会認定教育施設（脳波分野、筋電図・神経伝導分野） 日本透析学会認定施設　など

12. 大阪市立総合医療センター

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	・臨床研修指定病院（基幹型臨床研修病院）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪市民病院機構職員（有期雇用職員）として労務環境が保障されています。 ・大阪市民病院機構としてメンタルヘルスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに関する相談窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、医局・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	・指導医は 53 名在籍しています。 ・ともに総合内科専門医かつ指導医である、内科プログラム管理委員会（統括責任者：副院長）、プログラム管理者（診療部長）が各研修施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会と事務局を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会（2024 年度実績 8 回）を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC（2024 年度実績 5 回)を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスである都島メディカルカンファレンス(年 2 回）、キャンサーボード（年 4 回）、学術講演会（年 1 回）、DMnet one 研究会（年 5 回） 等を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC(2021 年度開催実績 2 回：受講者 9 名、2022 年度開催実績 2 回：受講者 12 名、2023 年度開催実績 1 回：受講者 7 名、2024 年度開催実績 1 回：受講者 9 名、2025 年度開催実績 1 回：受講者 10 名） の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・内科専門研修管理委員会と事務局は日本専門医機構による施設実地調査に対応します。 ・特別連携施設（大阪市立弘済院附属病院）の専門研修では、電話・大阪市立総合医療センターでの面談（週 1 回）・カンファレンス等により指導医がその施設での研修指導を行います。
3）診療経験の環境 【整備基準 23】	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうち、ほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 9 体、2023 年度実績 14 体、2024 年度実績 10 体）を行っています。

4）学術活動の環境 【整備基準 23】	・臨床研究に必要な図書室等を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2024 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で多数の学会発表（2023 年度実績 106 演題）をしています。
指導責任者	小西　啓夫 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪市立総合医療センターは、大阪市の中心的な急性期病院であり大阪市医療圏・豊能医療圏にある連携施設・特別連携施設と連携し内科専門研修を行い、　必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景や療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 53 名（2024 年度） 日本内科学会総合内科専門医 48 名、日本消化器病学会専門医 12 名、 日本肝臓学会専門医 4 名、日本循環器学会専門医 8 名、 日本内分泌学会専門医（内科）9 名、日本腎臓病学会専門医 7 名、 日本糖尿病学会専門医 9 名、日本呼吸器学会専門医 5 名、 日本血液学会専門医 5 名、日本神経学会専門医 3 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、 日本感染症学会専門医 5 名ほか
外来・入院 患者数	内科系外来患者合計　175,496 名（年間）　内科系入院合計　8,464 名（年間）内科系のみ（2024 年度）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携等も経験できます。

学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会専門医教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設等 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本てんかん学会てんかん専門医制度認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本甲状腺学会認定専門医認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本肝臓学会認定医制度認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設栄養サポートチーム専門療法士修練施設 日本感染症学会認定研修施設 等

13. 香川大学医学部附属病病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·香川大学医学部附属病院後期研修医（医員）として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（保健管理センター）があります。 ·ハラスメント相談員が相談に対応します。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が５５名在籍しています（下記）。 ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 10 回，感染対策 11 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2023 年度実績３回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催実績 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	南野　哲男 【内科専攻医へのメッセージ】 　香川大学医学部附属病院は香川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 50 名，日本内科学会総合内科専門医 46 名 日本消化器病学会消化器病専門医 25 名，日本循環器学会循環器専門医 14 名， 日本内分泌学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 5 名， 日本腎臓病学会専門医 5 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名， 日本血液学会血液専門医 4 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名， 日本アレルギー学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 3 名， 日本感染症学会専門医 4 名，日本救急医学会救急科専門医 9 名，ほか
外来・入院患者数 2020 年度	年間延外来患者数 236,421 人（全科）、78,883 人（内科）（2023 年度実績） 年間延入院患者数 163,117 人（全科）、51,339 人（内科）（2023 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アフェレシス学会認定施設 日本老年精神医学会認定施設 日本病院総合診療医学会認定施設 など

14. 倉敷中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·倉敷中央病院専攻医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部）があります. ·ハラスメント委員会が当院内に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 73 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、基幹施設、連携施設に設置される研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（年間開催回数：2025 年度 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年間実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・指導医が在籍していない特別連携施設での専門研修では、基幹施設でのカンファレンスなどにより研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の,総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています. 又,内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります.(2024 年度実績 181 演題)
指導責任者	石田　直 【内科専攻医へのメッセージ】 倉敷中央病院は,岡山県県南西部の医療の中枢として機能しており,地域の救急医療を支えながら,又高機能な医療も同時に任っている急性期基幹病院です. 内科の分野でも入院患者の 25%は救命救急センターからの入院であり,又内科領域 13 分野には多くの専門医が high volume center として高度の医療を行っています. 内科専門医制度の発足にあたり,連携病院並びに特別連携病院両者との連携による,地域密着型医療研修を通して人材の育成を行いつつ,地域医療の充実に向けての様々な活動を行います. 初診を含む外来診療を通して病院での総合内科診療の実践を行います.又内科系救急医療の修練を行うと同時に,総合内科的視点をもったサブスペシャリストの育成が大切と考えカリキュラムの編成を行います.加えて,医療安全を重視し,患者本位の医療サービスを提供しながら,医学の進歩に貢献できる医師を育成することを目的とします.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 76 名、日本内科学会総合内科専門医 52 名、 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 23 名、 日本内分泌学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 10 名、 日本腎臓病学会専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、 日本血液学会血液専門医 10 名、日本神経学会神経内科専門医 8 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本感染症学会専門医 3 名、日本救急医学会専門医 2 名、 日本肝臓学会専門医 7 名、 日本老年医学会専門医 3 名、 臨床腫瘍学会 4 名、消化器内視鏡学会専門医 20 名ほか
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者延べ数 271,235 人/年（2024 年度実績） 入院患者数 12,838 人/年（2024 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管カテーテル治療学会教育認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本糖尿病学会専門医認定制度教育施設 日本老年医学会認定施設 日本腎臓病学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

15. 国立循環器病研究センター病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント相談窓口が人事課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 72 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し（2024 年度実績　5 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2023 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24/31】3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 6 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･専門研修に必要な剖検を行っています。（2024 年度 10 体）
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究が可能な環境が整っています。 ・倫理委員会が設置されています。 ・臨床研究推進センターが設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 2 演題）をしています。また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます（2024 年度 329 演題）
指導責任者	野口 暉夫 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 72 名 日本内科学会総合内科専門医 50 名 日本循環器学会循環器専門医 54 名 日本脳卒中学会脳卒中専門医 20 名 日本糖尿病学会専門医 7 名 日本内分泌学会専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 6 名 日本神経学会神経内科専門医 22 名 日本老年医学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本感染症学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 171,001 名（2025 年実績） 入院患者 13,635 名（2025 年実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域、24 疾患群の症例を経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設　など

16. 滋賀県立総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·滋賀県の会計年度任用職員として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（滋賀県病院事業庁内）があります。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	·指導医が 19 名在籍(2021 年 3 月現在)しています。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 5 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群等で開催するカンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（地元医師会合同勉強会、全県型のメディカル・カンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2019 年度は実績 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 3 演題以上の学会発表をしています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·治験事務局を設置し、定期的に治験委員会を開催しています。 ·専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も積極的に行われています。
指導責任者	山本　泰三 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は滋賀県のがん拠点病院であり、がんについて豊富な症例と数多くのセミナーを経験できます。がんに関する教育・予防、診断・治療、緩和ケア、支援体制も充実しています。 虚血性心疾患、脳卒中、糖尿病などがん以外の生活習慣病についても、各分野の専門医や指導医が在籍しており、予防から侵襲的治療までを幅広く、深く経験することが可能です。その他の内科疾患についても、研修手帳に定める 70 疾患群を網羅的に研修することが可能です。多職種によるチーム医療も活発に行われています。当院での研修を活かし、今後さらに重要性が増す生活習慣病の subspecialty の専門医として、あるいは幅広い知識・技能を備えた generalist の内科専門医になれるよう頑張ってください。

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医　　日本内科学会総合内科専門医 日本糖尿病学会指導医　日本糖尿病学会専門医 日本消化器病学会指導医　日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 日本循環器病学会専門医 日本血液学会指導医　日本血液学会専門医 日本神経学会指導医　日本神経学会専門医 日本呼吸器学会指導医　日本呼吸器学会専門医　など
外来・入院患者数	外来患者名 18,144 名（1 カ月平均）　入院患者数 400 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会にも対応した地域医療、病診、病病連携を経験できます。特にがん・動脈硬化性疾患などの生活習慣病に関した連携が充実しています。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度審議委員会認定施設 日本呼吸器学会認定組織 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設 日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設（咽喉系） 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本肝胆膵外科学会 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設 日本ステントグラフト実施基準管理委員会 胸部大動脈瘤・腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設 日本膵臓学会認定指導施設

17. 日本赤十字社福井赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·嘱託研修医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課担当）があります. ·ハラスメント相談員が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所および病児保育施設があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	·指導医は 15 名在籍しています（下記）. ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（指導医），プログラム管理者（指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します. ·医療倫理（2018 年度実績 1 回）・医療安全（2019 年度実績 41 回）・感染対策講習会（2019 年度実績 41 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2019 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·病診,病病連携カンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に教育研修推進室が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ·専門研修に必要な剖検（2019 年度 13 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，カンファレンスなどを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2019 年度実績 3 回）しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2019 年度実績 1 回）しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表をしています.
指導責任者	赤井　雅也 【内科専攻医へのメッセージ】 福井赤十字病院は，福井県福井・坂井医療圏の中心的な急性期病院であり，連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります. 福井赤十字病院内科専門研修プログラム終了後には，福井赤十字病院内科専門研修施設群だけでなく，赤十字医療施設間の人事交流として県外の赤十字病院で勤務することも可能です.

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 15 名，日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会消化器専門医 12 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓学会専門医 5 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 4 名， 日本神経学会神経内科専門医 3 名，日本アレルギー学会専門医（内科）1 名， ほか
外来・入院患者数	外来：1234 名（全科 1 日平均：2019 年度実績） 入院：414 名（全科 1 日平均：2019 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本認知症学会教育施設 日本臨床神経生理学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器外科学会認定基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設など

18. 静岡県立総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·地方独立行政法人静岡県立病院機構職員の常勤医師（有期職員）として、労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。 ·ハラスメントに対処する部署、委員会が、病院内に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。また、地元幼稚園との連携保育も行っています。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	·指導医が 48 名在籍しています。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策研修会を定期的に開催（2019 年度実績：医療倫理 1 回、医療安全 13 回、感染対策 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンス（予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2019 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型の内科の領域別カンファレンスを、地域の病院と合同で月に 2,3 回開催し、専攻医の受講を促進、そのために時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 11 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 65 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（参考　2019 年度実績 12 体，2018 年度 13 体，2017 年度実績 10 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 15 演題の学会発表を予定しています。 ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ・インターネットにおける文献検索の充実化を医師、専攻医の要望により図っています。 · 倫理委員会を設置し，定期的に開催（2018 年度実績 15 回）しています. · 臨床試験管理室を設置し，２ヶ月に１回、臨床試験管理委員会を開催（2018 年度実績６回）しています．また、治験審査委員会を月に１回開催（2019 年度実績 12 回）しています。 · 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2018 年度実績 3 演題）をしています.
指導責任者	袴田　康弘 【内科専攻医へのメッセージ】 静岡県立総合病院は，高度救命救急センターを擁した、静岡県の中心的な急性期病院であり、内科専門研修プログラムの連携施設として、内科専門研修を行い、内科専門医育成を行います。

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医　11 名、日本内科学会総合内科専門医　34 名 日本消化器病学会専門医　8 名、日本循環器学会循環器専門医　11 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　7 名、日本リウマチ学会専門医　1 名 日本腎臓病学会専門医　4 名　日本神経内科学会専門医　3 名 日本血液学会血液専門医　3 名、日本アレルギー学会専門医　4 名 日本内分泌学会専門医　8 名　日本糖尿病学会専門医　6 名 日本老年学会専門医　1 名　日本救急医学会　救急科医学会　ほか
外来・入院患者数	外来：1,863 名（全科 1 日平均：令和元度年実績） 入院： 618 名（全科 1 日平均：令和元年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本神経学会専門医教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本老年医学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本急性血液浄化学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本アレルギー学会認定教育施設

19. 一般財団法人住友病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・専攻医各個人に 1 つずつ座席とロッカーが与えられます。 ・研修に必要なインターネット環境があります。各個人にそれぞれ 1 台の PC 端末が貸与され常に電子カルテにアクセス可能です。カルテからの情報収集やカルテ記載のために順番待ちをするということはありません。 ・また図書室は 24 時間使用可能です。100 種以上の英文ジャーナルを定期購読しており、専任の司書が存在するので文献検索も容易です。 ・一般財団法人住友病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・院内の職員用レストランは昼食、夕食に利用可能で、病院からの補助があるので 1 食 350～400 円程度で質、量ともに満足できます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 32 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者・副院長）、にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（202５年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・病診連携や病病連携など地域参加型のカンファレンス（基幹施設：中之島地域医療セミナー、臨床集談会、北大阪生活習慣病病診連携をすすめる会、　SOK s の会（循環器）、新大阪腎疾患カンファレンス、大阪血液疾患談話会、 神経内科の集い、大阪肝疾患臨床検討会 OLD-CC、呼吸器 CRP カンファレンス、なにわ緩和ケアカンファレンス、など；年間 60～70 回）を定期的に開催し、ローテート中の専攻医に受講を勧め、そのための時間的余裕を　与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（院内開催あり）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 7 体、2024 年度 12 体、2025 年度 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、医学写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 5 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 5 回）しています。

	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 10 演題、202４年度実績 9 演題、2025 年度実績 10 演題）をしています。 ・専攻医が学会に参加・発表する機会が多くあり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。在籍中に筆頭著者として英文論文を複数発表した専攻医も過去に何人もいます。
指導責任者	山本　浩司 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は大阪医療圏の中心的な急性期病院の一つであり、近隣医療圏にある多くの連携施設と併せて内科専門研修を行っています。 急性期から慢性期まで、また、common disease から専門性の高い疾患の高度医療に至るまで、できる限り多くの症例を主担当医として経験し幅広い 知識・技術を習得して頂くとともに、患者の社会的背景の把握、療養環境調整など全人的な医療を実践でき、地域医療にも貢献できる内科専門医の養成を目標としています。 診療科・出身医局・職種間の垣根が低く、連携・協力関係が極めて良好であるという当院の特色を生かして研修に邁進して頂きたいと思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 32 名，日本内科学会総合内科専門医 31 名 日本血液学会血液専門医 4 名、日本内分泌学会専門医 5 名、 日本糖尿病学会専門医 7 名、日本腎臓学会専門医 7 名、 日本高血圧学会専門医 4 名、日本透析医学会専門医 4 名、 日本リウマチ学会専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、 日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医４名、日本消化器病学会消化器専門医 11 名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 10 名、 日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、日本大腸肛門病学会専門医 2 名、 日本肝臓学会専門医 2 名、日本超音波医学会専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 6 名、日本臨床神経生理学会専門医 2 名、 日本脳卒中学会専門医 4 名、日本脳神経血管内治療学会専門医 1 名、 日本老年医学会専門医 4 名、日本老年精神医学会専門医 1 名、 日本精神神経学会精神科専門医 1 名、日本認知症学会専門医 2 名、 日本小児科学会専門医 3 名、日本小児神経学会専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医 1 名、日本人類遺伝学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,217 名（1 日平均）　入院患者 323 名（1 日平均） ※2025 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、専攻医登録評価システム（J-OSLER）（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設

	日本血液学会認定医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会認定医研修施設 日本老年医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門施設 日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本高血圧学会高血圧研修施設 日本超音波医学界認定超音波専門医制度研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本認知症学会認定専門医教育施設 など

20. 京都市立病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境（無線 LAN）があります。 ·適切な労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（職員相談室，メンタルヘルス相談窓口）があります。 ·ハラスメント委員会が整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があります。病児・病後児保育は京都市在住者であれば利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	·指導医が 27 名在籍しています。 ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理，医療安全，感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 医療倫理 1 回，医療安全 10 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンス（2021 年度予定）の参画については，現在検討中です。 ·CPC を定期的に開催（2020 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（2019 年度実績 11 回）を定期的に開催しています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。膠原病に関しては京都大学より非常勤医師派遣による外来診療が主体です。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2019 年度実績 5 演題）をしています。
指導責任者	吉波　尚美 【内科専攻医へのメッセージ】 　京都市立病院機構　京都市立病院は中京区に位置する病床 548 床の急性期病院です。バランスのとれた豊富な症例があり　各科の専門医，指導医が在籍し　良好な研修環境を整えています。1 人の人間として患者に寄り添い，より質の高い医療を提供できるよう　共に学び共に成長する仲間を求めています。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 27 名，日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名，日本肝臓学会専門医 3 名， 日本循環器学会循環器専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 1 名， 日本糖尿病学会専門医 3 名，日本腎臓病学会専門医 5 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名，日本血液学会血液専門医 3 名， 日本神経学会神経内科専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 1 名， 日本感染症学会専門医 3 名，ほか

外来・入院患者数	2019 年度実績 新入院患者数　14,592 名　　一日平均外来患者数　　1,326 名
経験できる疾患群	１）きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。 ２）研修手帳の一部の疾患を除き，多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について，幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	１）技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 ２）地域がん診療連携拠点病院として，外来化学療法センターを設置し多職種参加型の CBM に基づき　各領域のがん治療に携わる事が可能です。また 2016 年 4 月より腫瘍内科を開設しがん診療の一層の充実を目指します。
経験できる地域医療・診療連携	１）救急指定病院で，2019 年度の救急車受け入れ台数は 6,173 台，患者受け入れ件数は 21,486 件でした。急性期疾患に幅広く対応可能です。 ２）京都市内で唯一の第 2 種感染症指定医療機関であり，陰圧個室を含めた感染症専用病床を 8 床，また結核病床 12 床を有しています。「感染症法」上入院の必要な京都市及び乙訓地区の 2 類感染症患者に対応しています。３）毎月院内で病診連携の会を開催しており，地域連携室を中心に在宅や近隣医療機関との情報提供を緊密に行っています。
学会認定施設 （内科系）	･日本内科学会認定医制度教育病院 ･日本血液学会認定医研修施設 ･日本臨床腫瘍学会認定研修施設 ･日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設 ･日本高血圧学会専門医認定研修施設 ･日本甲状腺学会認定専門医施設 ･日本糖尿病学会認定教育施設 ･日本肥満学会認定肥満症専門病院 ･日本腎臓学会研修施設 ･日本透析医学会認定医制度認定関連施設 ･日本神経学会専門医制度教育施設 ･日本脳卒中学会認定研修教育病院 ･日本認知症学会教育施設 ･日本呼吸器学会認定施設 ･日本呼吸器内視鏡学会認定施設 ･日本消化器病学会認定医制度認定施設 ･日本肝臓学会認定施設 ･日本消化器内視鏡学会指導施設 ･日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ･日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設 ･非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 ･非血縁者間末梢血幹細胞採取施設・移植診療科 ･日本感染症学会連携研修施設 ･日本救急医学会救急科専門医指定施設 など

21. 神鋼記念病院

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	·初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·神鋼記念病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事所管室職員担当）があります。 ·ハラスメント相談員が人事所管室に配置されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·近隣に契約保育所があり、利用可能です。
2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	·日本内科学会指導医は 23 名在籍しています。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（年 3 回程）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（神鋼記念病院地域連携講演会、東神戸総合内科講演会、東神戸臨床フォーラム、東神戸呼吸器疾患講演会、神鋼循環器セミナー、神鋼糖尿病セミナー、神戸膠原病腎臓カンファレンス、など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3）診療経験の環境 【整備基準 24】	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、循環器、血液、膠原病、神経、代謝、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	·総合医学研究センターを設立し、医学・医療の発展のために臨床医学研究を推進し、高度先進医療の支援や共同研究を行なっています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·治験委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（年間 7～8 演題）をしています。
指導責任者	岩橋　正典 【内科専攻医へのメッセージ】 神鋼記念病院は、神戸の中心地に位置する急性期総合病院であるとともに、地域に根ざした第一線の病院でもあります。このことから臓器別の Subspecialty 領域（総合内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、血液内科、リウマチ膠原病内科、脳神経内科、糖尿病代謝内科、腫瘍内科、救急）に支えられた高度な急性期医療とコモンディジーズが同時に経験できます。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本アレルギー学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、 日本肝臓学会専門医 2 名、感染症専門医 1 名ほか

外来・入院 患者数	延べ外来患者 18,977 名（1 ヶ月平均）　延べ入院患者 9,169 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設、日本消化器病学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱ、日本リウマチ学会教育施設、日本血液学会血液研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、アレルギー専門医教育研修施設、日本神経学会准教育施設、など

22. 済生会吹田病院

認定基準 【整備基準 24】	厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院です。 また協力型臨床研修病院としても、多くの研修医を受け入れしています。
1）専攻医の環境	当院では 3 領域（内科・麻酔科・産婦人科）の専門研修プログラムを有し、 上記領域以外にも連携施設として多くの専攻医の受け入れを行っています。 研修に必要な文献や情報検索が可能な複数のオンラインジャーナル等を整備、 開院日・休診日に関わらず、図書室は 24 時間利用可能です。 医局等では wifi 環境を整備しており、インターネットも利用できます。 常勤嘱託職員として、労務環境が保障されており、体調不良時等に利用可能な休養室、院内保育所も整備しています。 メンタルストレスに適切に対処するための部署として、人権ハラスメント相談室があり、 内部通報制度に基づき、ヘルプライン相談窓口を設置しています。 対面やオンラインで臨床心理士によるカウンセリングを受けることも可能です。 女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室やシャワー室等も整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	指導医は 15 名在籍しています。 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、研修管理委員長等）にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター内に事務局を配置しています。 以下を定期的に開催・受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会（2025 年度実績 9 回） ●CPC カンファレンス（2024 年度実績 4 回、2025 年度実績 2 回） 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 JMECC 講習会については修了年度までに当院もしくは協力施設での受講を保証します。
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、 総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、神経の 7 分野で 定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会で積極的に学会発表しています。（2025 年度実績 5 演題） 学会・研修会での発表や参加時は事前申請制で諸費用を病院で負担します。
指導責任者	竹中　英昭（副院長・臨床研修センター長・プログラム統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪府済生会吹田病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、 豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設と共同で内科専門研修を行い、

	地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、救急からの入院も含め、多くの症例を経験できます。 入院から退院（初診・入院から退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、 社会的背景・療養環境調整も包括するチーム医療を実践できる内科専門医を養成します。
指導医数	日本内科学会認定指導医：15 名 日本内科学会認定総合内科専門医：11 名 日本消化器病学会認定消化器専門医：7 名 日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡専門医：4 名 日本肝臓学会認定肝臓専門医：5 名 日本循環器学会認定循環器専門医：4 名 日本腎臓学会認定腎臓専門医：1 名 日本糖尿病学会認定糖尿病専門医：2 名 日本呼吸器学会認定呼吸器専門医：6 名 日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医：4 名 日本神経学会認定神経内科専門医：1 名 日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医：1 名
外来・入院患者数（内科）	外来患者数（平均：351.2 名/日）　新入院患者数（平均：383.5 名/月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定　認定医制度教育病院
	日本呼吸器学会　認定施設
	日本呼吸器内視鏡学会　認定施設
	日本消化器病学会　専門医制度認定施設
	日本消化器内視鏡学会　認定指導施設
	日本循環器学会　循環器専門医研修施設
	日本糖尿病学会　認定教育施
	日本超音波医学会　認定超音波専門医制度研修施設
	日本がん治療認定医機構　認定研修施設
	日本肝臓学会　専門医制度認定施設
	日本神経学会　専門医制度准教育施設
	日本病態栄養学会　認定施設
	日本腎臓学会　認定教育施設

	日本緩和医療学会　認定研修施設 日本腹部救急医学会　腹部救急認定医・教育医制度認定施設 日本臨床腫瘍学会　認定研修施設 日本臨床栄養代謝学会　認定教育施設認定 日本アレルギー学会　アレルギー専門医准教育研修施設 日本透析医学会　教育関連施

23. 淀川キリスト教病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります．貸与されたタブレット端末を用いて電子ジャーナル検索がいつでもできます. •淀川キリスト教病院常勤医師として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルス推進課）があります. •ハラスメント相談窓口およびハラスメント防止・対応マニュアルが淀川キリスト教病院グループ内に整備されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています. •敷地内に院内保育所があり,利用可能です．また院内で病児保育の利用も可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	•指導医は 29 名在籍しています（下記）. •内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：総合内科専門医かつ指導医）にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. •CPC を定期的に開催（2025 年度実績 7 回）し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 12 回）を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. •プログラム所属の全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 9 名）を義務付けそのための時間的余裕を与えます. •日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	•カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. •70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. •専門研修に必要な剖検（2025 年度 5 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室，資料作成室などを整備しています. •倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 11 回）しています. •治験審査委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています. •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 14 演題）をしています.

指導責任者	紙森 隆雄 【内科専攻医へのメッセージ】 内科専門医を目指す方々は専門研修にどのようなイメージを持っておられるでしょうか. 内科の基礎をしっかり学びたい方もいれば，早く subspecialty 領域の力をつけて行きたい方もいるでしょう．将来どの分野に進むにせよこの 3 年間は内科医の土台となる最も大事な時期です．淀川キリスト教病院内科プログラムでは，一人一人の希望も汲みつつ内科医としての実力を養うための専攻スケジュールを提供します. 当院は，全人医療を理念とし，幅広い診療科と高度な医療機器を備え，大阪市北部・北摂地域の医療の中心的役割を担っている 581 床の急性期総合病院です．年間 7000 件前後の救急搬送実績があります．11 科からなる内科には，将来希望する subspecialty に充実した指導医やスタッフが在籍しています．これらの総合力を活かした幅広く質の高い研修ができること，さらにそれぞれの内科で subspecialty との並行研修ができ，切れ目なく希望する専門内科に進めるというのが当プログラムの特長です. また，地域医療から高度先進医療まで様々なニーズに応えられる多くの病院と連携しています. プログラムでは，内科医に不可欠な知識や技能，態度，問題解決方法に加え，将来の目標に合わせた研修を自ら選択できるよう様々な配慮をしています．質の高い内科専門医を目指す研修医の皆様の参加をぜひお待ちしています.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 29 名，日本内科学会総合内科専門医 35 名， 日本消化器病学会消化器専門医 11 名，日本肝臓学会肝臓専門医 3 名， 日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本内分泌学会専門医 4 名， 日本糖尿病学会専門医 4 名，日本腎臓病学会専門医 3 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名，日本血液学会認定血液専門医 3 名， 日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本アレルギー学会専門医 6 名， 日本リウマチ学会専門医 2 名，がん薬物療法専門医 2 名， 日本感染症学会 1 名，日本消化器内視鏡学会専門医 12 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 10271 名（2025 年度平均延数／月） 新入院患者 512 名（2025 年度平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて．研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域．70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．急性期医療では集中治療室での超重症例の診療も可能です.

学会認定施設 (内科系)	内科専門研修プログラム基幹施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会専門医研修教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定教育施設 など

24. 西神戸医療センター

1) 専攻医の環境 【整備基準 24】	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下、「機構」という）の任期付正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するため外部相談窓口を設けています。 ・ハラスメント防止対策委員会が機構内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。　※要事前相談
2) 専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	・内科指導医は 19 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年間 5 回～10 回程度）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（神戸西地域合同カンファレンス 3 回程度、各種カンファレンス他）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3) 診療経験の環境 【整備基準 24】	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています
4) 学術活動の環境 【整備基準 24】	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を予定しています。 倫理委員会を設置し定期的に開催しています。 治験委員会を設置し定期的に受託研究審査会を開催しています。
指導責任者	井谷智尚 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸市立西神戸医療センターは神戸市西区を中心とした西地域の中心的な急性期病院であり、地域に密着した救急医療と、がん診療連携拠点病院としての高度医療を 2 本柱としています。コモンディジーズから重症疾患まで、幅広い症例を経験できます。結核病棟（45 床）を有しており、結核症例も豊富です。 また、当院は平成 6 年の開院当初より地域医療室を開設しており、一貫して地域連携を推進しています。さまざまな病診、病病連携について経験可能です。

指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 19 名 日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器病専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名 日本肝臓学会専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 5 名 日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医 3 名ほか
外来・入院 患者数	外来患者 10,884 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数） 入院患者 5,419 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医教育関連施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本血液学会血液研修施設、日本神経学会准教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設など

25. 大阪医科薬科大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·大阪医科薬科大学病院レジデントとして労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ·ハラスメント委員会が整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 56 名在籍しています（下記）。 ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績　医療安全 7 回，感染対策 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2022 年度実績 13 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（2022 年度実績 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	星賀　正明（内科専門研修プログラム統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 　大阪医科薬科大学病院は、大阪三島医療圏に属し、人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは日本海総合病院と連携して内科医を育成することを目的とし，特に大学病院ならではの高度医療や多職種チーム医療を経験していただきます。また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。どうぞ安心して、本プログラムにご参加ください。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 56 名，日本内科学会総合内科専門医 51 名、日本消化器病学会消化器専門医 22 名，日本循環器学会循環器専門医 20 名，日本内分泌学会専門医 3 名，日本糖尿病学会専門医 10 名，日本腎臓病学会専門医 3 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名，日本血液学会血液専門医 4 名，日本神経学会神経内科専門医 8 名，日本アレルギー学会専門医（内科）1 名，日本リウマチ

	学会専門医 11 名，日本感染症学会専門医 3 名，日本救急医学会救急科専門医 9 名，ほか
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

26. 奈良県立医科大学附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・奈良県立医科大学附属病院の医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）があります。 ・ハラスメントに係る規程が整備され、必要に応じて委員会が開催されます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・病院の至近距離(50m)に院内保育所があり、病児保育の体制も整っています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修 プログラムの環境	・指導医が 112 名在籍しています。（按分前）（下記参照） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の委員会・講習会を定期的に開催（2023 年度実績：倫理セミナー（e-learning で 5 種類実施）、医療安全研修会（e-leaning で 6 種類実施）、感染対策研修会（e-leaning で 4 種種類実施））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 13 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・臨床医として優秀かつ教育実績のある医師を国内外から広く招聘し、専攻医の臨床能力向上に努めています。（Dr. N プロジェクト）
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、内分泌、アレルギーを除く、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。(連携施設からの按分症例数を含めると充分です)
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会或いは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022 年度実績 21 演題）をしています。
指導責任者	吉治　仁志 【内科専攻医へのメッセージ】 奈良県立医科大学附属病院は多くの協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて、質の高い内科専門医育成を目指しています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、内科専門医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 112 名，日本内科学会総合内科専門医 71 名 日本消化器病学会専門医 17 名，日本肝臓学会肝臓専門医 19 名， 日本循環器学会専門医 19 名，日本内分泌学会専門医 3 名， 日本腎臓病学会専門医 17 名，日本糖尿病学会専門医 9 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 13 名，日本血液学会血液専門医 5 名， 日本神経学会神経内科専門医 15 名，日本アレルギー学会専門医(内科）4 名， 日本リウマチ学会専門医 5 名，日本感染症学会専門医 8 名， 日本老年医学会専門医 6 名，日本消化器内視鏡学会専門医 18 名， 臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名　ほか
外来・入院患者数	一日平均外来患者数 2,328 名(年間延べ外来患者数は 565,629 名） 年間新入院患者 18,519 名(年間延べ入院患者数は 234,855 名）
経験できる 疾患群	極めて稀な疾患を除き、連携施設群の症例を合わせて、研修手帳(疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる 地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本動脈硬化学会専門医認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈心電学会認定認定不整脈専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 TAVR（経カテーテル的大動脈弁置換術）実施施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定専門医施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器がん検診学会認定医制度指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本リハビリテーション医学会専門研修プログラム基幹施設 日本神経病理学会認定施設 日本認知症学会教育施設

	日本頭痛学会認定教育施設 総合診療専門研修プログラム基幹施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定総合医・家庭医研修プログラム研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定施設 日本東洋医学会研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設　など

27. 国立病院機構兵庫中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	·研修に必要な図書館とインターネット環境があります. ·国立病院機構任期付き常勤医師として労務環境が保障されます. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があり、ハラスメント委員会も整備されています. ·女性専攻医のための更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用が可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	·指導医が 14 名在籍しています. ·医師臨床研修管理委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医にも受講を義務付けます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており，専攻医に特定数以上の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、代謝、呼吸器、神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	日本内科学会講演会・同地方会や日本神経学会近畿地方会など年間で２演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	二村　直伸　（脳神経内科） 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫中央病院は兵庫県における神経難病の拠点病院であり、連携病院として神経難病の基礎的、専門的医療を経験できます。また、重症心身障害者や結核病棟などもあり、セーフティーネット医療（民間の主体にゆだねた場合には必ずしも実施されないおそれがある医療）を経験できる数少ない病院です。一方、消化器、代謝、呼吸器などの分野でも専門研修が可能で、主に高齢者や障害者を中心とした各種疾患の研修ができます。そのような患者を担当し、様々なコメディカルと協調することによって、医学的な技術のみならず、社会的能力も備わった医師を育成することを目指します。

指導医数 （常勤医）	日本神経学会指導医 8 名，日本認知症学会指導医 2 名、日本糖尿病学会研修指導医 2 名、日本外科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名、日本呼吸器外科学会指導医 1 名、日本消化器外科学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本消化器病学会指導医 1 名，日本結核・非結核性抗酸菌症学会指導医 1 名、日本麻酔科学会麻酔科指導医 1 名、日本消化器病学会専門医 5 名，日本消化器内視鏡学会専門医 4 名，日本糖尿病学会専門医 3 名，日本呼吸器学会指導医 1 名，日本大腸肛門病学会専門医 1 名，日本神経学会専門医 11 名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者 55,022 名、入院患者 142,329 名
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域，34 疾患群の症例を経験することができますが，それ以外の分野で経験できる症例も数多くあります。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	主に慢性期医療を経験していただきますが、急性期医療ももちろん経験できます。患者さんを治す以外に患者さんや家族を支えていく医療を経験できます。内科医にとって必須である地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本神経学会認定教育施設 日本認知症学会教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本静脈経腸栄養学会認定ＮＳＴ稼働施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設

28.京都桂病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･嘱託常勤医師として労務環境が保障されています. ･ハラスメント相談及び苦情対応窓口あり. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･内科指導医は 29 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会 [統括責任者　　：宮田　仁美（血液浄化センター長，腎臓内科部長，指導医），　統括副責任者　：菱澤　方勝（血液内科部長，指導医）， 研修管理委員長：西村　尚志（副院長，呼吸器内科部長，指導医）　] ･専門医研修プログラム委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と研修管理事務局を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･内科合同カンファレンスを定期的に主催（2024 年度実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.（IMEC-K） ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･西京医師会と共同し、地域参加型のカンファレンスを定期的に多数開催しています. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に研修管理事務局が対応します. ･特別連携施設（南丹みやま診療所）の専門研修では，電話や面談・カンファレンス・委員会などにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検を行っています.（2024 年度実績 9 体）
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています. ･臨床倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ･治験委員会，臨床研究・倫理委員会が別にあり、各毎月 1 回開催しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	宮田　仁美（血液浄化センター長，腎臓内科部長，指導医） 【内科専攻医へのメッセージ】 京都・乙訓医療圏南部の急性期病院で、地域がん診療拠点病院でかつ地域医療支援病院です．地域の医療施設と連携しつつ責任感を持って地域の医療に貢献しています。同時に、初期および後期臨床研修病院として、医師のみならず多くの医療職の教育研修を行ってきました．そのような環境の中で、内科という医療の中でも中核を担う領域で、全人的・患者中心か

	つ標準的・先進的内科的医療の実践を志す内科専門医志望者を、連携病院とともに丁寧に育てていきたいと考えています.
指導医・専門医 （常勤医） (2025 年 4 月現在)	内科指導医 29 名 日本内科学会指導医，日本内科学会総合内科専門医（28 名） 日本消化器病学会消化器専門医，日本循環器学会循環器専門医， 日本糖尿病学会専門医，日本腎臓病学会専門医， 日本呼吸器学会呼吸器専門医，日本血液学会血液専門医， 日本神経学会神経内科専門医，日本アレルギー学会専門医， 日本リウマチ学会専門医， 日本救急医学会救急科専門医，　　ほか
外来・入院患者数 (2024年1月~12月)	総外来患者 182,303 名（年間実数）　総入院患者 18,361 名（年間実数）
病床数	551 床　（一般病棟 545 床，結核 6 床）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器内視鏡学会 専門医制度認定施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設 日本消化器病学会 専門医制度認定施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本内分泌学会 認定教育施設 日本甲状腺学会 認定専門医施設 日本内科学会 認定医制度教育病院 日本循環器学会 循環器専門医研修施設 日本骨髄バンク 非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 日本血液学会 認定血液研修施設 日本消化器内視鏡学会 専門医制度指導施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本救急医学会 救急科専門医指定施設 日本不整脈学会日本心電学会認定 不整脈専門医研修施設 日本胆道学会認定施設指導医制度 指導施設認定 日本気管食道科学会 研修施設認定 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 B 日本腎臓学会 研修施設 日本アフェレシス学会 認定施設 日本超音波医学学会認定超音波専門医研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本造血細胞移植学会認定 非血縁者間造血幹細胞移植認定施設 JALSG（日本成人白血病治療合同研究グループ）参加施設 経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術に関する施設　　など

29.大阪府済生会野江病院

【整備基準 24】 1)　専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・済生会野江病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士 2 名在籍）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、宿直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 28 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者、各内科系診療科部長などで構成）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与え ます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上） で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 8 体、2024 年度 3 体、2023 年度 2 体、2022 年度 3 体、2021 年度 3 体）を行っています。
【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理委員会、治験管理室を設置し、定期的に審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 4 演題の学会発表をしています。

指導責任者	相原　顕作（プログラム統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪府済生会野江病院は大阪市東部医療圏の中心的な急性期病院であり、当院および連携施設での研修により、内科専門医として必要十分な症例の経験が可能です。内科学会専門医受験に必要な研修内容を確保したうえで、subspeciality 等、将来の進路や個人の希望を考慮したフレキシブルなプログラムとなっています。内科系 subspecialist、内科系救急医療の専門医、病院における generalist、地域のかかりつけ医等、様々な進路が考えられますが、それらの進路へのスムーズな移行に配慮するとともに、いずれにも求められる患者本位の全人的医療を実践する基礎となる研修を意図しています。多くの専攻医の皆さんと一緒に、楽しく学べることを楽しみにしています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 28 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器病専門医 3 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 3 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 4 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会 3 名、日本高血圧学会 1 名、日本心血管インターベンション治療学会 3 名、日本肥満学会 1 名、日本呼吸器内視鏡学会 1 名、日本認知症学会 1 名、日本脳卒中学会 1 名ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者 8,299 名（1 ヶ月平均） 内科系入院患者 464 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会研修教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 など

30.大阪公立大学医学部附属病院

1) 専攻医の環境 【整備基準 24】	·臨床研修指定病院（基幹型研修指定病院）です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·大阪公立大学医学部附属病院前期研究医として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生担当）があります。 ·ハラスメント委員会が大阪公立大学に整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	·指導医が 93 名在籍しています。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療安全 12 回、感染対策 16 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績　9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3) 診療経験の環境 【整備基準 24】	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4) 学術活動の環境 【整備基準 24】	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績　20 演題）をしています。
指導責任者	川口知哉（大阪公立大学内科連絡会教授部会会長） 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪公立大学は大阪府内を中心とした近畿圏内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 93 名，日本内科学会総合内科専門医 75 名， 日本消化器病学会消化器専門医 30 名，日本アレルギー学会専門医（内科）7 名， 日本循環器学会循環器専門医 14 名，日本リウマチ学会専門医 4 名， 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名,日本感染症学会専門医 4 名， 日本腎臓病学会専門医 8 名，日本糖尿病学会専門医 12 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 15 名，日本老年学会老年病専門医 2 名， 日本血液学会血液専門医 11 名，日本肝臓学会肝臓専門医 11 名， 日本神経学会神経内科専門医 4 名，日本消化器内視鏡学会専門医 21 名,ほか

外来・入院 患者数	外来患者 149,211 名（延べ数）　入院患者 81,481 名（延べ数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会認定施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本腎臓学会研修施設、 日本アレルギー学会認定教育施設、 日本消化器内視鏡学会認定指導施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本老年医学会認定施設、 日本肝臓学会認定施設、 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、 日本透析医学会認定医制度認定施設、 日本血液学会認定研修施設、 日本神経学会認定教育施設、 日本脳卒中学会認定研修教育病院、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、 日本東洋医学会研修施設、 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、 日本肥満学会認定肥満症専門病院、 日本感染症学会認定研修施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、 ステントグラフト実施施設、 日本認知症学会教育施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本リウマチ学会認定教育施設 など

31.大阪大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ·非常勤医員として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する施設（キャンパスライフ健康支援・相談センター）が、大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）にあります。 ·ハランスメント対策委員会が院内総務課に設置されています。また、ハラスメント相談室が大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）に設定されており、病院職員の一人が相談員として従事しており、院内職員も利用可能です。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·病院と同敷地内に大阪大学学内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医は 82 名在籍しています(2025 年度)。 ・プログラム管理委員会および研修委員会を設置しています。 ・プログラム管理委員会は、基幹施設および連携施設の研修委員会と連携をはかり、専攻医の研修を管理します。 ·医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC（内科系） を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査に対して、研修委員会が真摯に対応します。
認定基準 【整備基準 23】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できる症例を診療しています。専門研修に必要な剖検を適切に行います。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	·臨床研究が定常的に行われており、臨床研究のための講習会も定期的に開催されています。 ・大阪大学臨床研究倫理委員会（認定番号 CRB5180007）、介入研究等・観察研究等倫理審査委員会が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	プログラム統括責任者　山本浩一　副プログラム統括責任者　保仙直毅 研修委員会委員長　山本浩一
指導医数（常勤）	(2025 年度) 日本内科学会指導医 82 名 総合内科専門医 145 名 内科学会指導医のうち、以下の専門医が定常的に在籍しています。 日本消化器病学会消化器専門医、日本肝臓病学会専門医 日本循環器学会循環器専門医、日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学会専門医、日本腎臓病学会専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医 日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会専門医（内科）

	日本リウマチ学会専門医、日本老年医学会老年科専門医、日本感染症学会専門医 JMECC ディレクター　0 名、JMECC インストラクター　8 名
外来・入院 患者数（内科系）	2025 年度実績　外来患者延べ数　196,432 名、退院患者数　6,680 名 （病院許可病床数　一般　1034 床、精神　52 床） 2025 年度　入院患者延べ数　99,135 名　（循環器内科　17,237 名、腎臓内科　6,325 名、消化器内科　18,867 名、糖尿病・内分泌・代謝内科　6,285 名、呼吸器内科　11,910 名、免疫内科　8,239 名、血液・腫瘍内科　13,614 名、老年・高血圧内科　4,440 名、脳神経内科　11,277 名、感染症内科　941 名）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある内科 11 領域、50 疾患群の症例を経験することができます。このほか、ICU と連携して ICU のローテーション研修を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、豊能医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本老年医学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本感染症学会認定研修施設

32.兵庫県立加古川医療センター

1）専攻医の環境 【整備基準 24】	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·兵庫県非常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ·ハラスメント委員会が整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2）専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	·指導医は 18 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（糖尿病・内分泌内科部長）、プログラム管理者（総合内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 7 回、2025 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応します。
3）診療経験の環境 【整備基準 24】	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちほぼ全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ·専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 10 体、2025 年度実績 3 体）を行っています。
4）学術活動の環境 【整備基準 24】	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 12 演題、2025 年度実績 5 演題）をしています。

指導責任者	田守　義和 【内科専攻医へのメッセージ】 県立加古川医療センターは、兵庫県の政策医療として東播磨地域の３次救命救急医療を担うと同時に、生活習慣病医療、緩和ケア医療、神経難病医療、感染症医療の充実という役割を担っています。すなわち疾病予防から、生活習慣病にかかわる疾患の急性期医療から慢性期医療、がん医療まで幅広い病態に対応し、さらには終末期医療も行う、という内科としてあらゆる病期ステージに対応しているのが特徴です。肝疾患、消化器疾患については地域の拠点病院として機能していますが、糖尿病・内分泌代謝疾患については兵庫県全域の拠点病院となり、地域のみならず兵庫県全県的なネットワークによる医療連携を実現しています。施設統合によりリウマチ膠原病内科および腎臓内科が稼働を始め、膠原病類縁疾患、腎疾患についても数多くの症例を経験可能です。内科各領域が高度な専門医療を提供している施設であるため、研修達成度によっては期間内に Subspecialty 研修との並行研修も可能です。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 18 名，日本内科学会総合内科専門医 13 名， 日本消化器病学会消化器専門医 5 名，日本肝臓学会専門医 3 名， 日本糖尿病学会専門医 4 名，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名， 日本神経学会神経内科専門医 4 名,日本リウマチ学会専門医 4 名，日本腎臓学会専門医 2 名， 日本病態栄養学会指導医・専門医 1 名,日本肥満学会肥満症指導医・専門医 1 名 日本甲状腺学会専門医 1 名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者 300.3 名（内科：1 日平均）　入院患者 97.8 名（内科：1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本神経学会准教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本甲状腺学会認定専門医施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本透析医学会認定施設、日本肥満学会認定肥満症専門病院　ほか

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会

（2026 年 4 月現在）

兵庫県立尼崎総合医療センター	田中　麻理	（プログラム統括責任者，腎臓内科分野責任者）
	南　尚希	（研修管理委員会委員長）
	佐藤　幸人	（循環器内科分野責任者）
	遠藤　和夫	（呼吸器内科分野責任者）
	上田　健博	（脳神経内科分野責任者）
	松村　毅	（消化器内科分野責任者）
	中村　嘉夫	（内分泌・代謝分野責任者）
	渡邊　光正	（血液・腫瘍内科分野責任者）
	長永　真明	（総合診療分野責任者）
	蔭山　豪一	（リウマチ・膠原病分野責任者）
	西尾　治郎	（事務局代表，臨床研修センター事務担当）

連携施設担当委員	田附興風会北野病院	北野　俊行
	日本赤十字社大阪赤十字病院	片山　昌紀
	関西電力病院	加地　修一郎
	公立豊岡病院組合立豊岡病院	森　健太
	日本赤十字社大津赤十字病院	前田　咲弥子
	日本赤十字社和歌山医療センター	直川　匡晴
	天理よろづ相談所病院	八田　和大
	神戸市立医療センター中央市民病院	古川　裕
	大阪府済生会中津病院	中澤　隆
	大阪市立総合医療センター	小西　哲夫
	京都大学医学部附属病院	横井　秀基
	神戸大学医学部附属病院	関口　兼司
	香川大学医学部附属病院	正木　勉
	倉敷中央病院	石田　直
	国立循環器病研究センター	野口　暉夫
	滋賀県立総合病院	中村　敬哉
	日本赤十字社福井赤十字病院	赤井　雅也
	静岡県立総合病院	袴田　康弘
	一般財団法人病院住友病院	重松　三知夫
	京都市立病院	吉波　尚美
	神鋼記念病院	旗智　さおり
	大阪府済生会吹田病院	竹中　英昭
	淀川キリスト教病院	上田　直子
	西神戸医療センター	孫　徹
	大阪医科薬科大学病院	星賀　正明
	奈良県立医科大学	吉治　仁志

国立病院機構兵庫中央病院		二村　直伸
京都桂病院		菱澤　方勝
兵庫県立加古川医療センター		田守　義和
大阪大学医学部附属病院		草壁　信輔
済生会野江病院		相原　顕作
大阪公立大学附属病院		藤田　雄也
オブザーバー	内科専攻医代表　2 名	

別表１各年次到達目標

内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 （外来は最大12）	56 疾患群 （任意選択含む）	29 （外来は最大7）

補足

1. 目標設定と修了要件

   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

2016 年 3 月　初版
2026 年 5 月　改訂

新専門医制度内科領域

兵庫県立尼崎総合医療センター

(Hyogo AGMC)

Ⅱ　内科専攻医研修マニュアル

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳(疾患群項目表)』『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。



兵庫県立尼崎総合医療センター　http://agmc.hyogo.jp/

2027 年 4 月 1 日　改訂版

整備基準 44 に対応

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム
専攻医研修マニュアル

1）専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は，(1)高い倫理観を持ち，(2)最新の標準的医療を実践し，(3)安全な医療を心がけ，(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
② 内科系救急医療の専門医
③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．

そして，兵庫県阪神南医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム終了後には，兵庫県立尼崎総合医療センター内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく，専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する，または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です．

2) 専門研修の期間

図 1-1　兵庫県立尼崎総合医療センター3 年型内科専門研修プログラム：一般型(概念図)

研修年	場所・内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻医研修1年目	研修場所	尼崎総合医療センター											
	内科	内科										救急総合診療2ヶ月	
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修2年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設※1											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修3年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設※1											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											

図 1-2　兵庫県立尼崎総合医療センター3 年型内科専門研修プログラム：地域優先型(概念図)

研修年	場所・内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻医研修1年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設のいずれか											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修2年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設のいずれか											
	内科	内科										救急総合診療2ヶ月	
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修3年目	研修場所	尼崎総合医療センターか連携施設のいずれか											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											

※ 3 年間のうち少なくとも 1 年間を基幹施設である尼崎総合医療センターで研修を行う．モデルは 2 年目に尼崎総合医療センターで研修するケースである．

図 1-3　兵庫県立尼崎総合医療センター 4 年型内科専門研修プログラム(概念図)

研修年	場所・内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻医研修1年目	研修場所	尼崎総合医療センター											
	内科	内科										救急総合診療2ヶ月	
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修2年目	研修場所	尼崎総合医療センター（か連携施設のいずれか）※2											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修3年目	研修場所	尼崎総合医療センター（か連携施設のいずれか）※2											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											
専攻医研修4年目	研修場所	尼崎総合医療センター（か連携施設のいずれか）※2											
	内科	内科											
	サブスペ	サブスペシャリティ											

尼崎総合医療センターの内科専門研修プログラムは，「3 年型内科専門研修プログラム　一般型」が基本です．連携施設が 4 年型プログラムを採用している場合にのみ「4 年型内科研修プログラム」を適用します．

基幹施設である兵庫県立尼崎総合医療センターで，3 年型プログラムでは専門研修（専攻医）2 年行います（図 1-1）．4 年型プログラムでは専門研修（専攻医）1～3 年間の専門研修を行います（図 1-）．

3) 研修施設群の各施設名（「プログラム」P.19「兵庫県立尼崎総合医療センター研修施設群」参照）

基幹施設：　兵庫県立尼崎総合医療センター

連携施設：　田附興風会北野病院
日本赤十字社大阪赤十字病院
関西電力病院
公立豊岡病院組合立豊岡病院
日本赤十字社大津赤十字病院
日本赤十字社和歌山医療センター
天理よろづ相談所病院
神戸市立医療センター中央市民病院
大阪府済生会中津病院
大阪市立総合医療センター
京都大学医学部附属病院
神戸大学医学部附属病院
香川大学医学部附属病院
倉敷中央病院
国立循環器病研究センター病院
滋賀県立総合病院
日本赤十字社福井赤十字病院
静岡県立総合病院
住友病院
京都市立病院
神鋼記念病院
大阪府済生会吹田病院
淀川キリスト教病院
西神戸医療センター
大阪医科薬科大学病院
奈良県立医科大学附属病院
国立病院機構兵庫中央病院
兵庫県立加古川医療センター
大阪大学医学部附属病院
大阪府済生会野江病院
京都桂病院
大阪公立大学医学部附属病院

4) プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（「プログラム」P.95「兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

田中　麻理（プログラム統括責任者，腎臓内科分野責任者）
南　尚希　（研修管理委員会委員長）
佐藤　幸人（循環器内科分野責任者）
遠藤　和夫（呼吸器内科分野責任者）
上田　健博（脳神経内科分野責任者）
松村　毅　（消化器内科分野責任者）
中村　嘉夫（内分泌・代謝分野責任者）
渡邊　光正（血液内科分野責任者）
長永　真明（総合診療分野責任者）
蔭山　豪一（リウマチ・膠原病分野責任者）

5）各施設での研修内容と期間

基本としている 3 年型プログラムでは，専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）2 年目の研修施設を調整し決定します．2 年目 1 年間を連携施設で研修します．病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間，原則として基幹施設で研修をします（図 1-1）．4 年型プログラムでは，専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）4 年目の研修施設を調整し決定します．4 年目 1 年間を連携施設で研修します．病歴提出を終える専門研修（専攻医）4 年目ですが，基幹施設にいる 3 年目で完成を目指します（図 1-2）

6）本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である兵庫県立尼崎総合医療センター診療科別診療実績を以下の表に示します．兵庫県立尼崎総合医療センターは地域基幹病院であり，コモンディジーズを中心に診療しています．

表．兵庫県立尼崎病院診療科別診療実績

2025 年実績	入院患者実数（人/年）	外来延患者数（延人数/年）
消化器内科	2,102	37,335
循環器内科	2,640	43,993
糖尿病・内分泌内科	351	23,048
腎臓内科	536	9,225
呼吸器内科	1,232	20,754
血液内科	905	22,034
脳神経内科	910	17,470
救急総合診療	625	4,672
膠原病リウマチ内科	232	13,814

＊　13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（「プログラム」P.19「兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修施設群」参照）.

＊　剖検体数は 2023 年度 10 体,2024 年度 18 体,2025 年度 12 体です.

7）年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず，内科として入院患者を順次主担当医として担当します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します.

入院患者担当の目安（基幹施設：兵庫県立尼崎総合医療センターでの一例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます.

専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は，受持ち患者の重症度などを加味して，担当指導医，Subspecialty 上級医の判断で 5～10 名程度を受持ちます．感染症，総合内科分野は，適宜，領域横断的に受持ちます.

専攻医 1 年目

4 月～5 月前半	循環器内科
5 月後半～6 月	代謝・内分泌内科
7 月～8 月前半	呼吸器内科
8 月後半～9 月	腎臓内科
10 月～11 月前半	神経内科
11 月後半～12 月	消化器内科
1 月～2 月前半	血液内科
2 月後半～3 月	救急総合診療(リウマチ科含む)

＊ 1 年目の 4 月に循環器領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります．5 月には退院していない循環器領域の患者とともに代謝・内分泌領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります．これを繰り返して内科領域の患者を分け隔てなく，主担当医として診療します.

＊

なお，症例経験および J-OSLER への症例登録を円滑に進めていくために，初年度は 6 月以降毎月症例登録状況を研修管理委員会がモニタリングし，適宜指導いたします．（平成 31 年度から導入）

8）自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．必要に応じて臨時に行うことがあります.

評価終了後，1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け，その後の改善を期して最善をつくします．2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医からのフィードバックを受け，さらに改善するように最善をつくします.

9）プログラム修了の基準

① 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）（以下「J-OSLER」という。）を用いて，以下のⅰ)～vi)の修了要件を満たすこと.

i）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を J-OSLER に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済みです（P.9 別表 1「兵庫県立尼崎総合医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）.

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています.

iii）学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あります.

iv）JMECC 受講歴が 1 回あります（他施設との共同開催となる場合もあります）.

v）医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります.

vi）J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性があると認められます.

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し，研修期間修了約 1 か月前に兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります.

10） 専門医申請にむけての手順

① 必要な書類

i）日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

ii）履歴書

iii）兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します.

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで，日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります.

11） プログラムにおける待遇，ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については，各研修施設での待遇基準に従う（「プログラム」P.19

「兵庫県立尼崎総合医療センター研修施設群」参照）.

12)　プログラムの特色

① 本プログラムは，兵庫県阪神南医療圏の中心的な高度急性期病院である兵庫県立尼崎総合医療センターを基幹施設として，兵庫県阪神南医療圏，近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は，3 年型プログラムでは基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間（4 年型プログラムでは基幹研修 1 年以上＋連携施設 1 年以上の 4 年間）です.

② 兵庫県立尼崎総合医療センター内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします.

③ 基幹施設である兵庫県立尼崎総合医療センターは，兵庫県阪神南医療圏の中心的な高度急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.

④ 基幹施設で兵庫県立尼崎総合医療センターでの 1 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，80 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.9 別表 1「兵庫県立尼崎総合医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）.

⑤ 兵庫県立尼崎総合医療センター内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，3 年型プログラムでは専門研修 2 年目の 1 年間（4 年型プログラムではモデルとして専門研修 4 年目の 1 年間），立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．全員が地域医療密着型病院と地域基幹病院で研修できるようプログラムします.

⑥ 3 年型プログラムでは，基幹施設である兵庫県立尼崎総合医療センターでの 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で，4 年型プログラムでは基幹施設である兵庫県立尼崎総合医療センターでの 3 年間で「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（P.9 別表 1「兵庫県立尼崎総合医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を主担当医として経験し，J-OSLER に登録します.

13)　継続した Subspecialty 領域の研修の可否

・内科と Subspecialty の連動研修を原則とします．内科系 Subspecialty が決まっていない場合には「救急総合診療科」を Subspeciality と位置づけて研修します.

・カリキュラムの知識，技術・技能を深めるために，総合内科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科検査を担当します．結果とし

て，Subspecialty 領域の研修につながることはあります.

・カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます.

14） 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧し，集計結果に基づき，兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

15） 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

16） その他

特になし.

別表 1　　各年次到達目標

内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

補足

1. 目標設定と修了要件
   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

2026 年 5 月改訂

新専門医制度内科領域

兵庫県立尼崎総合医療センター

(Hyogo AGMC)

Ⅲ　指導医マニュアル

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳(疾患群項目表)』『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。



兵庫県立尼崎総合医療センター　http://agmc.hyogo.jp/

2027 年 4 月

整備基準 45 に対応

兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム
指導医マニュアル

1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

・1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム委員会により決定されます.

・担当指導医は，専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）（以下「J-OSLER」という。）にその研修内容を登録するので，その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.

・担当指導医は，専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群，症例の内容について，都度，評価・承認します.

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します.

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います.

・担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行います.

2) 専門研修の期間

・年次到達目標は，P4 別表 1「兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修において求められる「疾患群」，「症例数」，「病歴提出数」について」に示すとおりです.

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，1.5 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による J-OSLER への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.

・<u>症例経験および J-OSLER への症例登録を円滑に進めていくために，初年度は 6 月以降毎月症例登録状況を研修管理委員会がモニタリングし，毎月指導医および専攻医に指導します．（平成 31 年度から導入）</u>

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，3 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.

・担当指導医は，臨床研修センターと協働して，毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．評価終了後，1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い，形成的に指導します．2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医はフィードバックを形成的に行って，改善を促します.

3) 専門研修の期間

・担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り，J-OSLER での専攻

医による症例登録の評価を行います.

- J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて，当該患者の電子カルテの記載，退院サマリ作成の内容などを吟味し，主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし，担当指導医が承認を行います.
- 主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として，担当指導医は専攻医に J-OSLER での当該症例登録の削除，修正などを指導します.

4） 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の利用方法

- 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します.
- 担当指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います.
- 専攻医が作成し，担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全29症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します.
- 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します.
- 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録，出席を求められる講習会等の記録について，各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します．担当指導医と臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します.
- 担当指導医は，J-OSLER を用いて研修内容を評価し，修了要件を満たしているかを判断します.

5） 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を，担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．集計結果に基づき，兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

6） 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて，臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で，J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価，担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い，その結果を基に兵庫県立尼崎総合医療センター内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い，専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます．状況によっては，担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います.

7） プログラムならびに各施設における指導医の待遇

兵庫県立尼崎総合医療センター給与規定によります.

8） FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します.

指導者研修（FD）の実施記録として，J-OSLER を用います.

9）日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり，指導法の標準化のため，日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し，形成的に指導します.

10） 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

11） その他

特になし.

別表１　　各年次到達目標

内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 （外来は最大12）	56 疾患群 （任意選択含む）	29 （外来は最大7）

補足

1. 目標設定と修了要件
   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

2021 年 4 月改訂
2026 年 5 月改訂